ネスレ
共通価値の創造報告書 2011
要約版:世界の水問題への取り組み

Nestlé
Good Food, Good Life

Meeting the global water challenge

2012年6月発行

2011年
パフォーマンス概要

「共通価値の創造」に関する主要パフォーマンス指標	GRI	2010年	2011年
経営指標			
グループ総売上高(百万スイスフラン)	EC1	93015	83642
純利益(百万スイスフラン)	EC1	34233	9487
栄養			
ネスレ・ニュートリション事業の売上高(百万スイスフラン)[a]	FP4	7700	7233
「ネスレ栄養基盤」の基準以上の製品(総売上に占める割合%)[b][c]	FP4	73.2	74.1
栄養または健康面に配慮して改良された製品数[d]	FP7	6502	5066
栄養価値の高い原材料または必須栄養素を強化した製品数[d]	FP7	3847	3851
ナトリウム、糖類、トランス脂肪酸、総脂質または合成着色料を削減した製品数[d]	FP6	2655	1215
製品試験プログラム60/40+(シックスティ・フォーティー・プラス)で分析・改善または確認された製品(売上高、百万スイスフラン)[b][e]	PR1	36420	28715
「ブランディド・アクティブ・ベネフィット(栄養有効成分)」を含む製品(売上高、百万スイスフラン)[a]	FP7	5335	5563
「ネスレ・ニュートリショナル・コンパス(栄養情報・製品情報)」の表示製品(世界総売上に占める割合%)[b][f]	PR3	97.1	98.0
パッケージ前面に1日の栄養摂取量ガイドライン(GDA)を示したEUの製品(売上に占める割合%)[b][g]	PR3	98.7	98.9
1サービング量を表示した製品の売上高(10億スイスフラン)[b][h]	PR3	21305	21894
責任あるマーケティング方針に準拠した12歳未満の子ども向けネスレテレビ広告の割合(%)[i]	PR7	99.5	99.1
乳児用調製粉乳マーケティング方針におけるネスレの要修正回数[j]	PR7	7	19
WHO規約に準拠した教育を受けた、高リスク国の乳児用調製粉乳マーケティングスタッフ(全スタッフに占める割合%)[k]	PR6	100	100
手の届く価格帯の製品群(PPP)の品目数	FP4	4860	5556
手の届く価格帯の製品群(売上、百万スイスフラン)[a]	FP4	9848	10610
環境サステナビリティ			
生産量			
総生産量(百万トン)		43.74	45.21
原料			
原料使用量(百万トン)	EN1	23.27	22.87
包装に使用する原料(百万トン)	EN1	4.59	4.58
包装原料の削減量(達成削減量キロトン)		70.8	39.3
エネルギー			
総エネルギー消費量(ペタジュール)		88.6	90.1
総エネルギー消費量(製品1トンあたりのギガジュール)		2.03	1.99
再生可能エネルギー使用割合(総量に占める割合%)		12.3	11.6
直接エネルギー総消費量(ペタジュール)	EN3	63.0	64.3
間接エネルギー総消費量(ペタジュール)	EN4	67.6	70.1
水			
総取水量(百万m^3)	EN8	144	143
総取水量(製品1トンあたりm^3)	EN8	3.29	3.17
生物多様性			
自然保護地域にある製造施設の合計規模(ヘクタール)[l]	EN11		44.2

「共通価値の創造」に関する主要パフォーマンス指標	GRI	2010年	2011年
排出、排水、廃棄			
温室効果ガス直接排出量(百万トンCO_2eq)	EN16	3.98	3.81
温室効果ガス直接排出量(製品1トンあたりkg CO_2eq)	EN16	91.0	84.2
温室効果ガス間接排出量(百万トンCO_2)	EN16	3.14	3.23
温室効果ガス間接排出量(製品1トンあたりkg CO_2)	EN16	71.9	71.5
総排水量(百万m^3)	EN21	94	94
総排水量(製品1トンあたり百万m^3)	EN21	2.15	2.08
排水の水質(平均COD値 mg/l)	EN21	78	69
副産物量(製品1トンあたりkg)	EN22	32.16	31.32
廃棄物量(製品1トンあたりkg)	EN22	8.45	7.59
環境サステナビリティの管理			
ISO 14001認定の製造施設(製造施設全体に占める割合%)		91	90
農業・地域開発			
能力開発プログラムによる研修を受けた農業従事者数		144 900	200 751
「ネスレ　持続可能な農業イニシアチブ(SAIN)」プログラムの対象市場数		45	46
SAINプログラムによって直接調達が実施されているマーケットの割合(%)		100	100
ネスレの調達方針を順守しているサプライヤー、主要取引先、優良主要サプライヤーの割合 (l)	FP1		96
「ネスレサプライヤー規約」に準じて調達された取引高の割合 (l)	FP1		75.2
私たちの人材			
従業員数(m)	LA1	281005	327537
会社全体での新規採用者率(%) (l) (n)	LA2		12.01
会社全体での離職率(%) (l) (n)			10.8
「ビジネスインテグリティ」(事業活動の統治)と人事関連で確認されたコンプライアンス違反件数		425	57
内訳:軽度		393	49
中度		32	8
重度		0	0
社員・請負契約者の休業を伴う負傷率(百万労働時間あたり)	LA7	1.8	1.8
報告対象になる社員・請負契約者の総負傷率(百万労働時間あたり)	LA7	4.2	3.8
社員・請負契約者の死亡件数	LA7	11	18
事業部門ごとの年間平均研修時間 (o)	LA10	0.58	2.02
管理職に占める女性の割合(%) (n)	LA13	27.3	28.0
途上国の現地法人経営陣に占める現地出身者の割合(%) (p)	EC7	48	53

(a) 2011年1月1日以降、売上計上方式を変更(グループ財務報告:発表の変更-収入の注1を参照)比較の基準として、2010年の数字をこれに従って更新。
(b) 2010年KPIの2011年との比較は不可(グループ財務報告:発表の変更-収入の注1を参照)
(c) 2011年の評価範囲:ネスレの総売上高の70%
(d) 世界の製品開発チームの約75%の報告に基づく。
(e) このKPIは当社の60/40+プログラムが活発に実施されていることをよく反映している。評価結果は、すべての条件に変化がなければ、最長3年間有効とした。
(f) ペットケアおよび、米国に限ってはドライヤーズ、ハーゲンダッツ、ピザ事業を除く。
(g) EU27ヵ国にノルウェー、スイス、アドリア海地域、ウクライナ、モルドバを加えた地域。(ミルクや砂糖の入らない)コーヒー、紅茶、水、ネスレプロフェショナル(業務用)の製品、ギフト用チョコレート、調味料、ペットケア、ネスレ ヘルスサイエンスとネスレ ニュートリションを除く。
(h) 1サービング単位販売の製品、もしくは、機器や装置を使用して販売される1食/1杯分が「ネスレ栄養基盤」に合致もしくはそれ以上とみなされる製品。もしくは栄養面でのニーズに応じて1サービング分を調整する詳細な指示とともに介護人に販売される製品。現状では、これは摂取量の指針に従ったポートフォリオの一部分である。
(i) 「ネスレの子ども向けマーケティングコミュニケーション方針」は2011年に更新。これまで、視聴者の50%以上が6歳から12歳の子どもの場合、そのメディアチャネルやプログラムは子ども対象と定義してきたが、2011年9月現在、その割合を35%に再定義した。したがって、上記のコンプライアンス割合は、視聴者の50%(2011年1月から8月)という過去の方針から35%(2011年9月から12月)という新しい基準を反映して計算している。
(j) 内部および外部監査に基づく。高リスクおよび低リスク国を区別するために2010年7月に基準の変更をして以降、WHO規約の実行に関するネスレの方針と指示が最低条件として適用される「高リスク」カテゴリーの国が増加。
(k) 「高リスク」国とは5歳未満の死亡率が1000人中11人以上、もしくは5歳未満の急性栄養失調(中程度もしくは深刻な消耗)率が2%超の国。それ以外の国は「低リスク」とした。
(l) 新KPI
(m) 合弁事業を含むネスレの全社員が対象
(n) 人事システムに登録されたネスレの社員が対象(全社員の約80%)
(o) 人事システムで研修状況を管理されているネスレの社員が対象(全社員の約62%)
(p) シリアル・パートナーズ・ワールドワイド社を含むネスレの全社員が対象

本報告書は「水資源」に加え、「栄養」と「農業・地域開発」といった「共通価値の創造」の注力分野に対するネスレの取り組みを要約したものです。これらはすべて私たちの価値創造活動の中核をなすものであり、私たちがサービスを提供し、事業を行う地域社会の持続可能な開発とウエルビーイングに不可欠なものです。

目次

1 2011年の水問題に関する主な取り組み
2 会長・CEOからのメッセージ
4 本報告書について
5 重要課題
6 水資源
31 ネスレにおける「共通価値の創造」
32 栄養
34 農業・地域開発
36 環境サステナビリティ
38 人権とコンプライアンス
40 ステークホルダーとの取り組み
41 日本での取り組み

オンライン完全版は、「共通価値の創造」ウェブサイトwww.nestle.com/csv でご覧いただけます。ボトル入りウォーター部門に関する詳細な報告は、ネスレウォーターズの「共通価値の創造」報告書www.nestle-waters.com でご覧いただけます。

KPIと共に本報告書に記載されているKPI値は主要パフォーマンス評価指標であり、表紙内側のパフォーマンス概要にまとめられています。

イタリック体で表記されたブランドはネスレグループの登録商標です。

本報告書は、"Creating Shared Value Summary Report 2011 Meeting the global water challenge"を翻訳したものであり、翻訳分に疑義または相違がある場合は、英語版が優先するものとします。本書41ページ以降はネスレ日本グループが追記した内容となります。

本報告書の翻訳文中のURLは、ネスレS.A.のHPとなり、すべて英語となります。

本報告書の日本円表示は1スイスフラン=89円、1米ドル=79円の換算レート(2011年平均)による参考額です。

Photography
Nana Kofi Acquah, Ralph Alswang, Markus Bühler-Rasom, Frederic Courbet/Panos Pictures, Lionel Deriaz, Sam Faulkner/NB Pictures, Jijo de Guzman, Robin Hammond/Panos Pictures, Harmen Hoogland, Jim McClellan, David Magnusson/Panos Pictures, Manoj Masand, Cecilia Österberg, Mikkel Ostergaard/Panos Pictures, Qilai Shen, Jacob Silberberg/Panos Pictures, Paul Smith/Panos Pictures, Daryl Visscher, World Economic Forum

2011年の水問題に関する主な取り組み

−28%

2001年以降のネスレの工場における
総取水量の削減率

11

2011年に水資源審査の対象となった
工場の数

301

公営施設を利用できない、
あるいは公共施設が不十分な地域での
工場内の排水処理施設の数

−36%

2005年以降にネスレウォーターズが
生産工程で使用する水を削減した率。
生産した水1リットルあたり世界平均で
0.63リットルを達成

10

水に関連した「ネスレ 接続可能な
農業イニシアチブ（SAIN）」
プロジェクトの数

2.25
百万スイスフラン
（約2億円）

国際赤十字・赤新月社連盟（IFRC）、
コートジボワール赤十字協会と新たに
3年間のパートナーシップを提携し、
コートジボワールにおける水資源と衛生、
食品の安全と救急医療に関する
イニシアチブへ投資する額

2011

→ 世界水週間開催時にストックホルム産業水大賞を受賞。
→ ミネラルウォーターヴィッテルの水源であるボージュ地方流域の水質保全と生物多様性の保護について、
フランスの環境省庁から特別表彰

2012

→ 2012年以降、私たちはW.A.T.E.R.方針の実践、
進捗状況の追跡（30ページ参照）、ステークホルダーとの
取り組み（40ページ参照）により、パフォーマンスの向上と
水資源に関する報告に力を注ぎます。

会長・CEOからのメッセージ

2050年までに世界の人口は93億人に達すると予想され、これを支えるため、私たちは食糧の生産量を倍増させなくてはなりません。その鍵を握るのが、地球上で最も希少な天然資源である水です。現在のように水を過剰使用していけば、石油より先に水が枯渇するでしょう。ネスレが「燃料のための糧はない」と主張するのはこのためです。

現在のペースで淡水を過剰使用していると、経済成長に深刻な遅れが生じるでしょう。さらに悪いことに、今後 15 年から 20 年で大規模な食糧危機を引き起こすと考えられます。問題をさらに悪化させるものとして、2050 年までに世界の人口がさらに 23 億人増加し、現在の食糧やエネルギーに対する需要がさらに高まることが挙げられますが、そのどちらもが淡水と非常に関わりをもっています。

世界をリードする栄養・健康・ウエルネス企業として、お客さまのニーズに対応するために、ネスレは、あらゆる段階で信頼できるルートを確保して清浄な水を入手しています。ネスレは水に対して真剣に考え対応に務めています。今年は 2006 年の水資源に関する報告書で言及した 5 つの「W.A.T.E.R. 方針」を見直し、私たちの事業展開、サプライチェーンおよびコミュニティとの協力を通して引き続き水への取り組みを推進することを確認しました。現在、進捗状況をモニターする一連のパフォーマンス指標の開発を行っています。

水の問題は地域の課題です。しかし、経済が相互に連動している現状では、地域の水不足の影響がたちまち世界的な問題になります。ネスレの事業展開によって影響を与えることはできますが、本当の意味で持続可能な解決策は、複数のステークホルダーが協力して対処して初めて実現するのです。従って、私たちの直接的な対応の一方で、水資源に関する国際的な対話を積極的に推進していく所存です。

近年、水資源は世界で最も注目される問題となってきました。2008 年、世界経済フォーラムは「2030 年水資源グループ」を立ち上げ、この問題に対処するための主要な人材を集め、水資源が枯渇の危機にあることを強調しました。

ネスレ会長のリーダーシップで、グループは「水の将来を描く」と題した画期的な報告書を発表し、その主な調査結果がその他のステークホルダーとの協力の下、各国政府のリーダーシップによって具体的な対応に盛り込まれています。これは淡水の取水量を自然再生とバランスのとれたものに戻すための重要な第一歩です。

ネスレは「国連グローバル・コンパクト CEO ウォーターマンデート」を提唱した一企業でもあり、その報告要件は、本報告書に反映されています。私たちは水資源に関わる公共政策のディベートに積極的に参加し、バイオ燃料に関する誤った政策が及ぼす影響について理解を深めるべく努力しています。リオの 20 カ国・地域首脳会合で「燃料のための糧はない」ことへの明確な方針が打ち出されることを期待しています。食糧は人間のためのものです。燃料として使って差し支えないのは廃棄物です。

私たちは、適切で安全な淡水を使用することは人間の権利だと確信しています。水分補給と基本的な衛生環境のための用途以外にも、持続可能な水資源に対する政策では、コストとその真価（および希少性）を反映し、水に妥当な価格を設定するべきです。

私たちは企業が長期的に成功を収めるには、株主に対する価値を創造すると同時に、事業を行う地域と社会全体に対しても価値を創造しなければならないと考えています。私たちはこれを「共通価値の創造」と呼んでいます。ネスレはそのバリューチェーン全体を解析し、「共通価値の創造」に最適な 3 つの分野として、「水資源」以外に「栄養」と「農業・地域開発」を特定しました。「水資源」が本報告書の主たるテーマであることに変わりはありませんが、残り 2 つの優先分野、ならびに「共通価値の創造」の必須基盤である環境サステナビリティとコンプライアンスにおける進捗状況と課題についても報告しています。本報告書の一部として、国連グローバル・コンパクトとそのブループリントを私たちが強く支持していることを改めて表明します。ネスレは国連グローバル・コンパクト LEAD の提唱メンバーです。

「栄養」に関して言えば、ネスレは国連がイニシアチブをとる「Every Woman Every Child」への取り組みを推進すると同時に、「ヘルシーキッズ　グローバルプログラム」を拡大し、子どもに栄養と運動の大切さを教えるなど、今日の健康問題に引き続き対応しています。また、ネスレでは女性が収入を得ら

ケニア、カビエットの東アフリカ酪農開発プロジェクトの工場にミルクを供給している農家の水施設を訪問するネスレ会長　ピーター・ブラベック・レッツマット（左）

インド、カルナータカの新工場に近い学校を訪問するネスレCEOポール・ブルケ。ネスレはその地域の現地政府と協力して村の学校に清潔な飲料水と下水処理施設を提供しています。

れる仕事の提供や、女性と子どもに焦点を置いた教育環境の継続的な提供も行っています。こうした取り組みは、国連ミレニアム開発目標に対する私たちの支持を反映したものとなっています。

私たちの「農業・地域開発」目標には本来責任ある調達が欠かせないものであり、2011 年には 1,910 件の監査を行い、その現場に対してサプライヤーの責任が遂行されていることを確認しました。私たちのトレーサビリティプログラムも重要な節目を迎えています。2010 年のパーム油および紙とパルプに始まり、2012 年までにはさらに 10 の分野と主要原料にこのプログラムを拡大する予定です。特に深刻な課題が児童労働です。ここ数年私たちはネスレのサプライチェーンにおいて児童労働の余地のないことをさらに確実なものにするために取り組んできました。従ってネスレ独自のカカオサプライチェーンの透明性を高めることができるように、そしてこの件に関係する他のステークホルダーと共に是正措置を定め実行することができるように、NGO 公正労働協会と協働する初めての食品企業となったのです。

本報告書要約版、ならびに www.nestle.com/csv でご覧いただける「共通価値の創造」に関する詳細な報告書に、私たちの進捗状況と 2011 年の課題を記載しています。 それらが皆さまにとって興味深く有益であることを願っています。また、www.nestle.com の「お問い合わせ」ボタンより皆さまからの情報・ご意見が寄せられることを心待ちにしています。

会長
ピーター・ブラベック・レッツマット

CEO
ポール・ブルケ

本報告書について

「共通価値の創造」に関する報告書では、ネスレが社会に与える長期的影響とそれが事業の長期的な成功にどう影響するかについて明確な情報を共有したいと考えています。

報告書の経緯

2007 年からは、2 年ごとに世界規模での「共通価値の創造報告書（CSV 報告書）」を発行しており、現在は、毎年オンラインで CSV 報告書の完全版を発行する形に移行しています。報告書では、ネスレのバリューチェーンを通した主要パフォーマンス評価指標（KPI）に対する進捗状況を示し、ネスレの事業が直面している課題への対応について説明しています。

2011 年の注力分野：水資源

ネスレでは 3 つの注力分野、すなわち「栄養」、「農業・地域開発」、「水資源」のうち 1 つを掘り下げた分野別の報告書要約版の冊子発行によって、オンライン報告を補っています。2011 年度は「水資源」についてです。

ボトル入りウォーターの世界的企業であるネスレウォーターズは、www.nestle-waters.com にある「共通価値の創造報告書」で独自の活動について詳細な報告を行っています。

CEO ウォーターマンデート - 本報告書の構成要素

本報告書の「水資源」のセクションでは、「国連グローバル・コンパクト CEO ウォーターマンデート」の 6 つの重要要素のうち 5 つの要素におけるネスレの取り組みを取り上げています。5 つの要素（公共政策、共同の取り組み、企業での取り組み、サプライチェーン、コミュニティとの関わり）の各々について個別の章で説明しており、6 番目の要素の「透明性」は本報告書の発行をもって果たされています。

さまざまな形態による情報発信

本報告書要約版、ネスレ CSV 報告書のオンラインレポート完全版およびケーススタディ、オーディオコンテンツ、ビデオ、オンラインダウンロード素材（www. nestle.com/csv）は、ネスレの事業・財務業績の概要を示す「2011 年ネスレ年次報告書」に付随するものです。さらに、これらは「共通価値の創造」パフォーマンスに関する総合的な情報発信に不可欠な部分であり、国連グローバル・コンパクトのアドバンスド・リード企業に求められる報告条件も網羅しています。

報告書の今後

今後、ネスレでは、社外報告書をグローバル・レポーティング・イニシアチブ（GRI）の G3.1 ガイドラインや GRI の食品加工業界補則といったグッドプラクティスガイドラインに適合させていく予定であり、後者の開発にも参加しています。さらに、2010 年 8 月には、ネスレの最高財務責任者が、チャールズ皇太子創設のアカウンティング・フォー・サステナビリティ・プロジェクト（A4S）と GRI によって設置された国際統合報告委員会（IIRC）のメンバーとなりました。

報告書の範囲および保証

最新オンラインレポートおよび本要約版に含まれる情報は、特に注記のない限り、2011 年 12 月 31 日を最終日とする 2011 年のネスレの全世界事業を対象としています。

データは、特に明記がない場合は、合弁事業やサプライヤーを除く、ネスレの完全子会社や関連会社を対象としています。環境関連データは工場のみを（最近買収されたものを除く）、また、健康・安全面に関するデー タは約 29 万人の全社員[KPI]（正社員と臨時社員）とネスレの施設で働く約 8 万人の契約社員を対象としています。

ネスレの CSV 報告はビューロー・ベリタスによる独立第三者機関の保証の対象になります。保証ステートメント全文については、www.nestle.com/csv をご覧ください。

なお本報告書 41 ページ以降はネスレ日本グループが追記した 2012 年 6 月現在の内容となります。

重要課題

ネスレでは、戦略コンサルティング業務を行う独立シンクタンクであるサステナビリティ社と共に、数年にわたり、ネスレにとって最重要と考えられる問題の優先順位付けを体系的に行ってきました。

メディアや競合企業の調査を一部参考にして、サステナビリティ社は世界的なメガトレンドを明確化し、ネスレの「共通価値の創造」の注力分野、経済、環境および社会的課題、ならびにステークホルダーの関心のレベルとネスレに対する潜在的な影響のレベルに基づいたマテリアリティ（重要性）・マトリクス上の優先課題に対してその関連性を評価しました。この作業を社内で検証した後、ネスレの定期的な協働プロセス（ステークホルダーとの取り組み概要は40ページを参照）の一環として2011年秋に外部ステークホルダーと主要なトピックについて議論しました。

メガトレンド

サステナビリティ社はネスレにとって特に重要なメガトレンドとして下記を特定しました：限定的な資源、経済の不確実性、人口変動（都市化、高齢化および中流消費者の増加など）、健康とウエルネス、気候変動、および継続的な技術開発。

マテリアリティ（重要性）

サステナビリティ社の解析およびニューデリーとロンドンで開かれたステークホルダー会議において、ネスレにとって新しい問題および/またはこれまでと比較して重要性が増している問題が多数特定されました。サステナビリティ社は下記を最優先課題として指摘しています：

製品のリコール件数の増加は、ネスレと食品・飲料産業にとって製品の安全性が引き続き最大の懸念であることを意味しています。特にインドでのアレルゲンの問題は重要です。本報告書のテーマである水、そして水と食糧、エネルギーおよびその他の社会、環境、経済などの問題との複雑な関係に対する注目が高まっています。気候変動の緩和が重要な関心事である一方、特に農村部において気候変動の影響の効果が感じられるようになったことから、ステークホルダーの間では気候変動への適応に対する関心が高まっています。多くの地域で肥満、失業者、貧困層が増加していることを受け、欧州、米国およびインドなどでは、健康的な食品のアフォーダビリティ（手頃感）とアクセシビリティ（入手性）が業界の戦略の具体的な目標となり、ステークホルダーの関心を集めています。カカオ栽培での児童労働を禁止することを目的としたハーキン・エンゲル議定書の調印から10年経っても、農業をはじめとするさまざまな分野においてサプライヤーにおける人権がステークホルダーにとって重要な問題として関心を集めています。最後に、原材料価格や主要原料の不安定性がかつてないレベルに達し、供給の弾力性が失われているように見受けられることから、全般的な資源の利用可能性が話題の中心になっています。

ネスレに対する影響のレベルとステークホルダーの関心のレベルに従って優先順位設定したサステナビリティ社の問題解析の結果はwww.nestle.com/csv/materiality のマテリアリティ（重要性）・マトリクスを参照してください。

以上はサステナビリティ社の記述です。

ボトル入りウォーター

サステナビリティ社の解析に加え、ネスレではさまざまなステークホルダーのモニターや彼らとの協働を通じて、ボトル入りウォーター産業が水に対する人権と環境に与えるとされる影響に関心を抱いている方々がいらっしゃることを確認しました。

ネスレウォーターズはボトル入りウォーター事業を世界的に展開する企業ですが、使用している水はごく少量です（全世界の事業で世界の淡水取水量のわずか0.0009%）。ネスレウォーターズはボトル詰めする水以外に、洗浄や冷却などの生産工程で水を使っており、信頼できる水源を確保して事業の長期的な成功に必要な一定品質の水を適量入手しています。ネスレでは消費者に信頼され、健康的な水分補給の主役となる高品質な製品の提供を目指しています。

それゆえに私たちは水がいかに貴重かを理解し、下記の3つのアプローチを用いて水の管理に責任を持って取り組んでいます。第1に、ネスレでは利用する各水源の状態を常にモニターしています。第2に、リスク管理を行い、潜在的なリスクから水源を守る対策を講じています。第3に、製造に使う水を継続的に最大限に活用するようにしています。さらにネスレウォーターズは事業を展開している地域社会のステークホルダーと水資源の管理に関する専門知識とベストプラクティスを共有しています。同じく、私たちには将来水資源を管理する役目を担う子どもたちに、環境にとっての水の重要性や健康的な水分補給における水の役割について教育する責任を果たします。ネスレウォーターズによる環境管理の詳細は、36 ～ 37ページを参照してください。

ガーナ・テマ工場の排水処理施設で処理した水を測定している
技術者 エドワード・ダウティ

水資源

水資源は、社会全体とネスレの事業にとって、深刻で長期的なリスクとなる非常に切迫した国際的な環境問題になっています。ネスレは水資源の問題への取り組みにおいてリーダー的役割を果たしています。

水資源の危機

世界全体では十分な量の淡水がありますが、豊かさを追求する都市人口の増加と気候変動の影響が組み合わさることによって、世界のさまざまな地域で水不足が深刻な現実味を帯びてきています。

2030年までに、水に対する需要は現在の50%増となり、取水量は自然再生量を60%以上も上回ると考えられることから、世界人口の3分の1が水不足に悩まされることになるでしょう（出典：2030 Water Resources Group）。取水量の3分の2以上が農業に利用されていることから、世界の水資源の危機を解消できなければ食糧不足の危険も生じます。

供給を増やすこと、利用効率を高めることだけでは限りがあります。その他の課題に対処するには、政策決定者、市民団体、農業および産業界が協力し、私たちがこの貴重な資源の価値を評価し、利用し、管理する方法を大幅に改善することが必要です。

オンライン資料
- www.nestle.com/csv/Water
- www.unglobalcompact.org/ceo_water_mandate
- www.nestle.com/csv/Stories

水問題への対処

社会政策

水に関する課題にその活動が影響されるすべての関係者と同様に、ネスレにとっても水問題の解決策は最終的に政府やセクター間の協力に左右されるため、水の“過剰な利用”に対処する戦略策定の一助となるよう、農家の方々から政策決定者に至るあらゆるステークホルダーと対策重視の対話を重ねています。

→ 12～15ページを参照

企業での取り組み

運営効率を最大限化するために、ネスレでは事業に持続可能な水管理法を取り入れ、取水量の削減、水の再利用量の増加、代替となる水源の活用、製品の水効率の向上に役立つ節水プログラムを実行しています。また、ネスレでは清浄な水を環境に戻しています。

→ 20～23ページを参照

コミュニティとの関わり

非政府組織と協力して、ネスレでは工場のある地域に住む人々が清潔な飲料水を確保し、衛生と下水処理の重要性について理解を深められるように、水管理計画への資金調達、支援および運営をお手伝いしています。多くの場合、こうした関与はネスレが原材料の供給を受けている地域社会の状況改善を目的としています。

→ 28～29ページを参照

共同の取り組み

水資源グループ（WRG）のイニシアチブ、国連グローバル・コンパクトCEOウォーターマンデート、ウォーターフットプリントネットワーク、アライアンス・フォー・ウォーター・スチュワードシップなどを通じて、ネスレではアイデアの交換、新しい考えの育成、革新的な解決策の開発を行っています。

→ 16～19ページを参照

サプライチェーン

原材料の長期的な入手を確保する必要があることから、ネスレでは現地のステークホルダーとともに水資源保護活動に参加したり、ベストプラクティスの共有を行う一方、高品質な原材料を供給してくれる数百万人の農家の人々に直接投資や適切な水管理方法の研修を行うサポートをしています。

→ 24～27ページを参照

専門家の意見：
南アフリカ共和国からの見解

人口約5,000万の南アフリカ共和国では、需要の増加、水資源の汚染、持続性のない利用や浪費により悪化する淡水の不足という問題に直面しています。気候変動や人口増加といった要因も水の消費量増加に拍車をかけています。

― エドナ・モレワ
南アフリカ共和国　水・環境問題担当大臣

わが国南アフリカ共和国では水の管理について現実的かつ深刻な問題が生じています。これに関して、私たちは貴重な水資源を保全・保護し、より多くの水を利用できるようにすることで経済的な成長と適切な雇用を生み出すべく、独創的な考え方で取り組んでいます。

南アフリカは降水量が少なく、水不足が生じやすい国です。降水量は世界平均の約50%で、水量は世界最小レベルです。また、降水は季節限定的で、5カ月間で全体の約80%の雨が降ります。これにより、国内の水の利用性と水不足についてさまざまな懸念が生じていますが、南アフリカ政府は水資源をうまく管理し、水を賢く利用できれば、切迫した水不足は起こらないと考えています。現在の予測では、南アフリカでの水の利用は、2050年までに経済的に利用可能な地上の水源の限界をほぼ確実に上回ると言われています。ただし、私の省では、未来の世代に向けて、人が清潔な水を利用できるようにするための革新的な対策に取り組んでいます。

この国の人々が持続可能な生活を確立するための継続的な努力の一環として、水の利用に対する行動や態度を変える以外に私たちに選択肢はありません。事実、水資源を利用する方法を変更しなければ、経済成長と適切な雇用の創造に使える水を増やすためのイニシアチブに問題が生じるでしょう。水が不足すると経済成長に必要なエネルギー生成能力に制約が生じます。農業分野の雇用を創出し、国の食糧を確保する能力にも悪影響が生じます。鉱工業部門による経済成長や雇用創出にも制約が生じるでしょう。

従って、私たちには水資源を積極的に保護する共同責任があります。この点において、南アフリカのモーセルベイにあるネスレの工場で、2010年までに水消費を50%削減するという取り組みを行ったことは称賛されるべきでしょう。水の利用効率を向上するプロセスを社内で見直し、他の水利用者にも同様の取り組みを促している企業があることに励まされます。

また、ネスレはその世界的なサプライチェーンにおける水管理を改善するためのリーダーシップ、パフォーマンスおよび取り組みに対してストックホルム産業水大賞を受賞されました。心より祝福いたします。水の保全に関する一般市民への教育が不可欠であることにも変わりはありません。そこで私たちは、水の保全に対する認識の向上とコミュニティによる水の無駄遣いへの対応を奨励するキャンペーンを開始しました。また、水の供給がひっ迫している地域では家庭での使用のため海水を淡水化するプログラムも開始しました。

こうした貢献の総合的な効果により、わが国でより多くの水が利用できるようになれば、経済の成長と適正な雇用の創出という戦略目標を追求することが可能になります。産業界との協力を進めるために、私たちは水に関して影響力のある官民グローバルネットワークで、世界経済フォーラムと国際金融公社が支援する水資源グループ（WRG）と協定書を交わしました。その意図は、私の省の理事長が代表を務める官民グループを通してWRGとパートナーシップを構築し、南アフリカの重大な水問題、すなわち水の保全、需要管理および地下水資源の持続可能な管理方法の開発に関する活動を監視することです。

“

わが国の人々が持続可能な生活を確立するための継続的な努力の一環として、水の利用に対する行動や態度を変える以外に私たちに選択肢はありません。”

エドナ・モレワ
南アフリカ共和国　水・環境問題担当大臣

私たちは南アフリカ国民がこの取り組みに参加することで、現在と将来の世代のためにわが国を水を大切にする国にしたいと考えています。新しい政策の立案においては、憲法および人権上求められる責務を引き続き取り入れ、わが国のサービス提供モデルの構築を図っていきます。

経済成長と適正な雇用創出のために使える水を増やすことに取り組むなかで、私たちは今後も特にネスレなどの企業をはじめ、さまざまなステークホルダーのサポートが期待できると確信しています。

本ページのコメントは著者個人の意見であり、ネスレの考えと一致するとは限りません。

専門家の意見：水事業

水資源の不安定性は21世紀の大きな問題として立ちはだかっており、政策決定者や企業のリーダーが協力して対処しなければならない問題です。

ジョン・ブリスコー
世界銀行　シニアウォーターアドバイザー兼ブラジル担当理事
現在はハーバード大学 環境工学教授

長い間、公的部門のリーダーや非政府組織が水に関する議論の中心になっていましたが、この10年間は、この問題に関与する民間企業（ネスレがリーダー的役割を担う）が2つの段階で増え始めています。

1つめの段階は、社会が1滴の水に対してより多くの生産物−つまりより多くの食品、エネルギー、収入、雇用−を確保できるようにする技術を開発する企業と定義されます。これらは大きく3つのグループに分けられます。第1グループは、生産性を高めた植物種や農業技術を開発する企業、第2グループは、水や排水を処理する新技術を開発する企業、第3グループは、降水確率、土壌の水分、水や肥料の条件などについて、必要な情報を適時提供する企業です。精密農業では従来の農法と比較して1滴あたりで生産できる穀物が多く、産業や都市の水使用量も大幅に減少させることができます。

2つめの段階では、水不足と水質に対する懸念の拡大が、企業の社会的な存在意義を脅かす可能性があるということを意識することが発端となります。企業はこれまでいくつかの方法で対応してきました。平和的解決のために活動家団体に多額の寄付をする企業もあれば、自社工場で対応できる水基準に注力する企業もありました。ただし、リーダーとしてのネスレの例が示すように、最も先見性のある企業は、自社工場で水などの資源を効率的に管理する以外に、（企業とそのサプライヤーを含む）社会が公平で効率を重視し、流水域で使用されるすべての水を管理する法律や規制環境を整える必要があることを認識しています。これらの企業は、民間事業が政策決定プロセスに役立つ有用で合理的な意見を提示できることを確信しています。

まず、この重要な段階に関わっている企業の例を2つ挙げます。

最初の例はブラジルです。公共部門の事業の質を向上させることは、この国が直面する最大の組織的課題といって間違いないでしょう。8年前、ある主要な州の新知事がこの問題に直面しましたが、それに対処する人材もツールも揃っていませんでした。州知事はブラジルで最も成功し、勢いのある企業2社インベブ（ビール会社）とゲルダウ（資源会社）の経営陣に相談し、この2社は協働で2つの原則を制定しました。すなわち知事が取り組みを主導する場合のみ彼らが支援し、利害の対立の兆候があれば慎重に回避するという原則です。次にこれら2社は人材と資金を提供し、州はそれを利用して「マネジメント・ショック」というプロセスを断行し、大成功を収めました。現在、ブラジルの他の州がこのプロセスを模倣しています。

第2の例はパキスタンで、国内最大の県の知事が官民の専門家を集めて水の生産性と水の確保に関する課題に対処しました。民間の取り組みは、現地の民間部門が、強力なサポート役となったネスレ主導の多国籍企業グループと協力して進めました。

ネスレが協力したのは次の3つの理由でからです。第1に、この地においてネスレは単なる乳製品加工工場ではなく、工場にミルクを提供する19万の農家の人々との関わりを持っており、経営理念である「共通価値の創造」が実践できることです。これらの農家は、水が家畜のみならず、穀物や家族にとっても重要であることをネスレに話してくれていました。

第2に、パキスタンはネスレにとって重要かつ収益性の高い市場であり、パキスタンが繁栄し、安全な国となることでネスレのウエルビーイングも高まります。

“

水不足の脅威が増加し、変化する事態に対応できるかどうかは、人類にとって最大かつ存亡に関わる課題の1つです。”

ジョン・ブリスコー
世界銀行　シニアウォーターアドバイザー兼ブラジル担当理事
現在はハーバード大学 環境工学教授

第3に、ネスレは（パキスタンなど）どの国にあっても多国籍企業ですが、国際企業であると同時にその地の現地法人でもあります。パキスタンで最も先見性のあるビジネスリーダーの1人はネスレの大株主であり、ネスレ社員のほぼ全員がパキスタン人です。そして、すべてのパキスタン人は水に関して自国がいかに脆弱かをわかっています。ブラジルのインベブやゲルダウと同様、ネスレも改革を進めようとする政治主導者にその経営ノウハウを提供し、また、他の国内・国際企業も同じように協力するよう促しました。

水不足の脅威が増加し、変化する事態に対応できるかどうかは、人類にとって最大かつ存亡に関わる課題の1つです。実際、グラスに水は半分しか残っていません。しかしまだ半分残っているとも考えられ、政治家がさらに根本的に改革に取り組み、企業のリーダーが政治家と協力してこの問題に対処しようとすることで、大規模かつ体系的な効果が期待できるでしょう。

本ページのコメントは著者個人の意見であり、ネスレの考えと一致するとは限りません。

社会政策

水の“過剰採取”という世界的な問題は民間セクターだけでは解決できません。具体的な対応を促すために、ネスレは公共政策の議論に深く関わり、流域のステークホルダーと、政府、および国際レベルで取り組むことが効果的な戦略を開発する正しい方法であると確信しています。

世界的背景

豊かさを追求する都市人口の増加と気候変動の影響が組み合わさることで、水の需要がかつてないほどに広がり、企業や経済の繁栄において水の戦略的重要性が増しています。しかし、世界の多くの地域で水不足が現実となってきており、それに伴い、生活、人間の健康、および生態系全体が脅威にさらされています。

今後20年で水に対する需要は現在の50%増となり、2030年までに淡水の取水量は自然再生量を60%以上超えると考えられることから、世界人口の3分の1が水不足に悩まされることになるでしょう（出典：2030 Water Resources Group）。供給を拡大して効率を高めることではこのギャップは少ししか埋まりません。政策決定者、市民団体および企業は、水の価値の評価や管理する方法を劇的に改善するべく協力しなければなりません。

公共政策の議論への参加

ネスレが排水処理工場を初めて建設した1930年代以降、重要な問題として水への対策が講じられてきました。現在もそれは変わっていません。一例としてネスレ会長のピーター・ブラベック-レッツマットは、数年前から世界経済フォーラム（WEF）に積極的に参画しており、2011年1月にスイスのダボスで行われた年次会議にも参加しました。（www.weforum.org を参照してください。）

2008年以降、ネスレは世界銀行グループの国際金融公社、マッキンゼー・アンド・カンパニーなどのメンバーで構成される2030年水資源グループ（WEF-WRG）でもリーダーシップを発揮してきました。ブラベック-レッツマット主導の下で、このグループは水不足に対する新しい見識を模索し、考えられる解決策に伴う機会とコストを明らかにし、結果に基づいたステークホルダーとの対話を強化しています。ディベート以外にも、費用対効果に優れた包括的な戦略の枠組みの中での独自の取り組みによって、解決に貢献したいと考えています。

水の将来を描く

1年間の協働を経て、2030年水資源グループは2009年11月に代表的な報告書となる「水の将来を描く」を発行しました。報告書では世界的な課題に対する明確な見解を示すだけでなく、流域レベルでの取水量のギャップを軽減するためのさまざまな手段や技術の影響、規模、コスト、トレードオフおよび有効性をステークホルダーが比較するための実践的なツールも提供し、水の管理を広範囲にわたる経済的・社会的決定に統合できるようにしています。

主な課題	目標	対策	パフォーマンス
• 政府に効果的に関与し、手頃なコストで水不足を克服できることを証明すること。 • 試験的プロジェクトは有望だが、政府の関与とリーダーシップが不可欠であることには変わりない。	• 取水量と自然再生量のバランス確保に関する公共政策のディベートに参加すること。 • 流域レベルでの水利用の有効性を向上させる行動指向の対話に参加し、バランスの取れた規制枠組みを提示すること。	• 政府と公的機関の対話および政府間討論会に参加すること。 • 2030年水資源グループの議長を務め、世界経済フォーラムの水に関する取り組みを主導すること。	• 水資源グループが検証したインド、パキスタン、南アフリカ、ヨルダン、メキシコおよびモンゴルにおける水費用曲線。 • 世界経済フォーラム、世界水週間、チャッタムハウスなど、複数のハイレベルな官民の対話への参加。

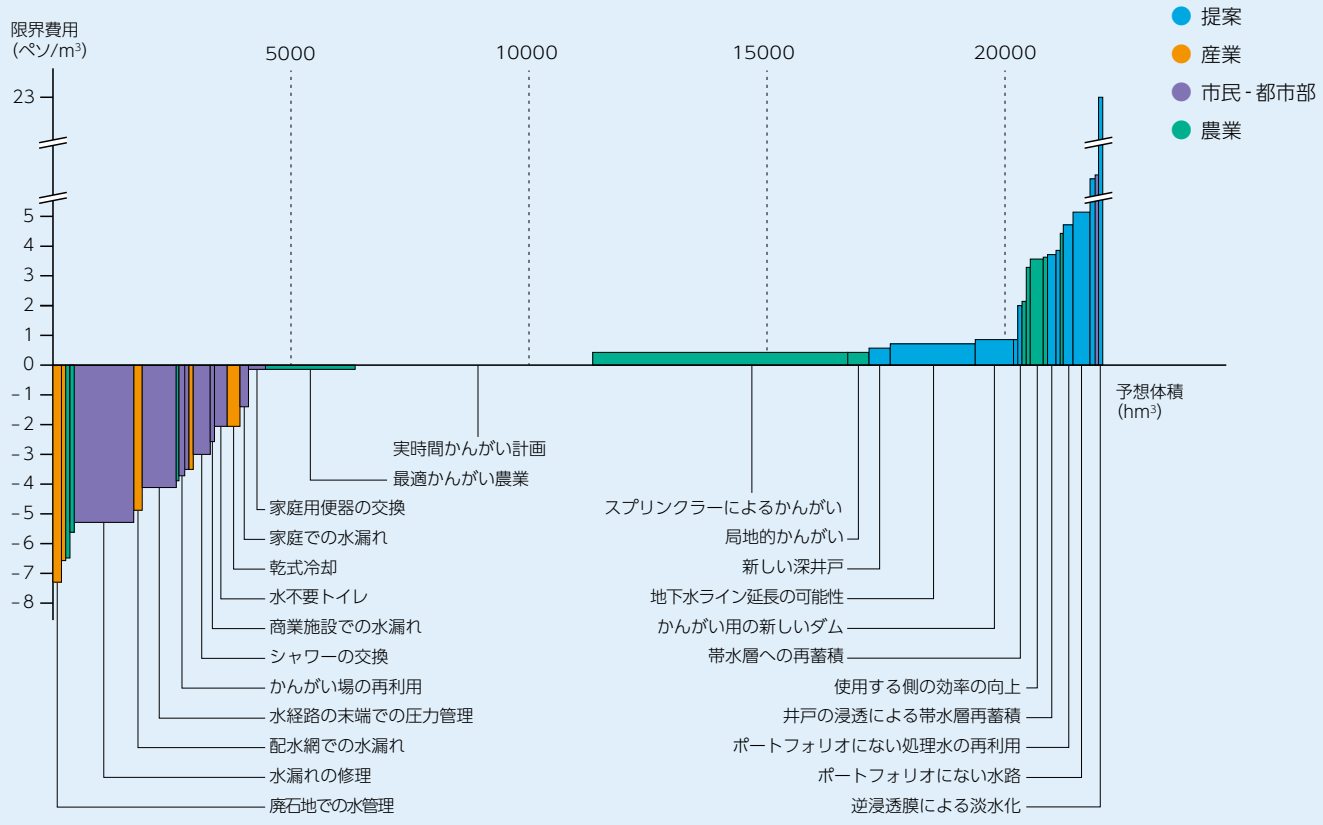
国際的な問題

私たちすべてに関係する重要な水資源の問題

毎日水を汲むのために長い距離を歩き（国際赤十字・赤新月社連盟（IFRC）によるとアフリカの女性と子どもの平均移動距離は6km）、整備された水施設を利用できず、適切な下水処理施設を利用できない人が大勢います。誰もが清潔な水を利用できるという目標のためには、適切な公共政策とガバナンスは不可欠であり、ネスレはその実現に向け全力でサポートします。数百万人が直面している水不足の問題を解決する施策に力を入れることは同時に、ネスレの事業のリスク軽減にもつながっています。

6
km

水資源グループが発表した2030年水費用曲線：メキシコ



出典：2030 Water Agenda（メキシコの国家水委員会）

水費用曲線は主要なツールであり、個々の流域で採取する水を自然の再生サイクルに沿ったレベルに戻すために供給・需要両面について包括的な測定値を示すことで、ステークホルダーの理解を助けています。

例えば、インドでは、長い間大規模な水施設に多額の資本が投じられてきましたが、水資源の管理は今もなお大きな問題です。「水の将来を描く」において、世界経済フォーラム2030年水資源グループ（WEF-WRG）は140の方法を解析し、19の主要な取水域で予想される需要と供給のギャップを縮小できるとして、37の方法を選択しました。水資源の管理費用は最小に見積もっても、2030年の年間支出は59億米ドル（約4,661億円）になります。

水費用曲線の検証

最終的に、流域、河川流域、帯水層に関する解決策が必要であり、WEF-WRGは複数のステークホルダーのパイロットプロジェクトを通して政府による優先順位設定・開発戦略を支援しています。

メキシコでは（上記の費用曲線を参照）、国内13の水管理地域の各々で厳密な予測シナリオを実施する集中的な取り組みが行われています。水の需要と供給のバランスを取るために、次の4種類の対応に注力する必要があります：近代化の推進（一次および二次的経路の再配置）およびかんがい地区とユニットの技術化；成長分野への供給を行うためのインフラの継続的建築；飲料水と汚水処理システムの有効性強化；家庭、事業所および産業施設における効率的な技術利用の推進。

WEF-WRGは水資源、将来の需要、さらに考えられるさまざまな解決策に対するモンゴル当局の理解を深め、「モンゴル版水イニシアチブ」実行計画を開発するための共同対応もサポートしています。

オンライン資料

- www.nestle.com/csv/Water
- www.weforum.org

グローバル

ストックホルム産業水大賞

ネスレの生産活動における水利用の管理と効率の向上が認められ、世界水週間の開催時にストックホルム産業水大賞（www.siwi.org/siwa参照）がネスレに授与されました。ネスレは、2001年以降、取水量総計を30%削減させ、製品1キロあたりの取水量も7.6リットルから3.17リットルとしており、2015年までにさらに10%減少させることを目指しています。

下：ネスレ会長　ピーター・ブラベック・レッツマットが会社を代表してストックホルム産業水大賞を受賞

2011年8月に行われたストックホルム産業水大賞でスウェーデンの国王・王妃と面会するネスレ　オペレーション担当エグゼクティブ・バイスプレジデント　ホセ・ロペス

“ネスレでは将来の食糧確保に加え、経済成長についても水が最大の課題になると考えています。この賞は、水資源の分野で企業にとって最も名誉ある賞であり、今回の受賞は今後の取り組みにおいて大いに励みになるでしょう。”

会長
ピーター・ブラベック・レッツマット

モンゴル

現地のステークホルダーを束ねる

世界経済フォーラム水資源グループはネスレ会長のピーター・ブラベック・レッツマットがリーダーとなり、国内および国際的レベルですべてのステークホルダーが参加する組織的な活動を模索しています。
上：モンゴル大統領府と水資源グループの共同開催により2011年6月にモンゴルで行われた世界経済フォーラム水資源グループの会議

共同の取り組み

水資源の問題は共同の取り組みが必要な国際的問題です。ネスレは「国連グローバル・コンパクトCEOウォーターマンデート」を提唱した企業の一社として、また国内および国際的なネットワークの活動メンバーとして、他者の意見から学び、同時にネスレ自身が持つ知識を共有することに務めています。

水問題の管理

ネスレでは事業部門が水資源に対する責任を負うようにしており、水に関わる問題を管理するための部門の枠を超えた確固とした体制を設けています。ホセ・ロペスが代表となっているネスレのウォーター・タスクフォースがハイレベルな戦略を定める一方、オペレーション・ウォーター・タスクフォースはそれを事業運営上の目標、および主要パフォーマンス評価指標(KPI)に落とし込み、現在と今後の課題を理解して責任ある水源の管理による競争上の優位性を達成できるようにしています。

また、ネスレのウォーター・タスクフォースはさまざまな共同取り組みのイニシアチブに対する会社の関与を統合し、世界的な水資源の危機に対する解決策の提案という形で当社の熱意を体現しています。

関与と開示

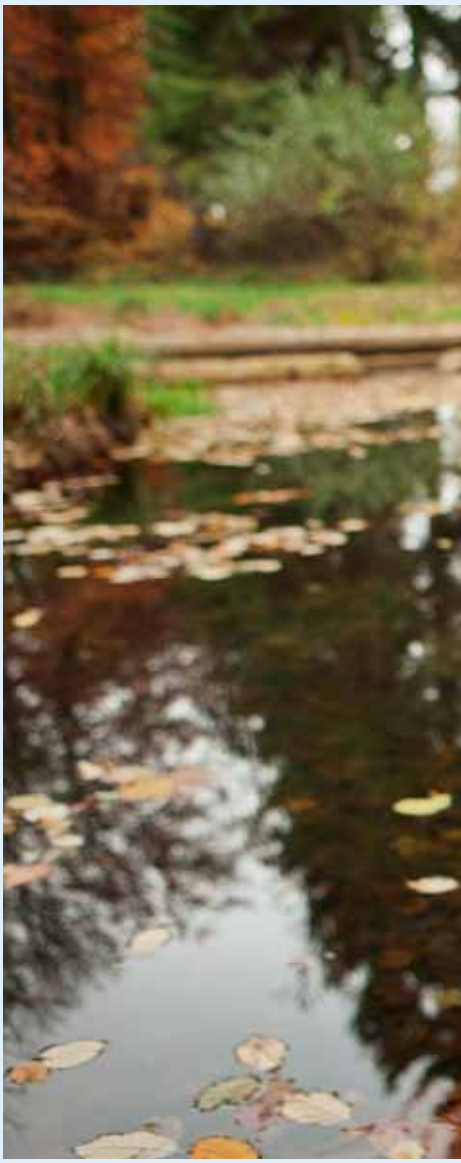
ネスレは87の企業が環境機関などのステークホルダーと協力して水資源の開示、公共政策への関与、水に対する人権をサポートする独自の官民イニシアチブである「国連グローバル・コンパクトCEOウォーターマンデート」を提唱した企業の一社です。 私たちは関与しているこうした分野についてマンデートの作業部会に積極的に参加し、毎年「コミュニケーション・オン・プログレス(Communication on Progress (COP))と呼ばれる進捗レポートを公開しています。本報告書は2011年度のCOPです。

2011年、マンデートはコペンハーゲンとストックホルムで2つの作業会議を開催しました。作業部会を通して行われているイニシアチブは以下のとおりです:

- 企業の水利用について、より標準化したグローバルな方法で開示してもらうためのウォーター・ディスクロージャー・ガイドライン;
- ネスレが寄稿した人権・企業研究所の水・企業および人権報告書。企業が水と下水処理施設を利用する権利をどう遂行すべきかについての具体的なガイドブックも製作中です;
- 企業、政府、NGOおよびコミュニティの流域レベルでの協調を促すウォーター・アクション・ハブ。実際に、東南アジアと南アフリカで共同取り組みのイニシアチブが行われており、水資源に関する国際政策領域にも継続的な関与を行っています。

ストックホルム国際水協会

私たちはストックホルムで開催された世界水週間においてもまた、専門家、実務者、意思決定者とのアイデアや革新的技術の交換に積極的な役割を果たしています。世界水週間はストックホルム国際水協会が主催する年次イベントで、都市化する社会における水をテーマにした2011年のイベントでは、ネスレにストックホルム産業水大賞が授与されました。世界水週間への参加と同時に、私たちは協会の専門家と協力して食糧廃棄による水への影響といった具体的な課題にも取り組んでいます。



主な課題

- さまざまなリスク・影響評価ツールから拡大利用できるものを適切に選択すること。
- その土地に合った実践的で複数のステークホルダーに適した解決策を提供するさまざまなイニシアチブを調整し、調和させること。

目標

- 水問題を共通のリスク・責任として認識し、水の管理責任を奨励する自主的な複数のステークホルダーイニシアチブでリーダーシップを発揮すること。
- 水利用のバランスを取るためにネスレの事業展開に関連して流域での共同取り組みを追求すること。

対策

- 「CEOウォーターマンデート」のすべての作業に参加し、カーボン・ディスクロージャ・プロジェクト（CDP）に参加する最初の企業の一社となること。
- ISO14046やアライアンス・フォー・ウォーター・スチュワードシップ（AWS）、ウォーター・フットプリント・ネットワークを通じて共通の基準を支持すること。
- コロンビア、インド、フランスなどの国で現地の水保護・管理イニシアチブに参加すること。

パフォーマンス

- AWS国際基準開発委員に任命：2012年第1四半期までに基準の初案を作成。
- 「CEOウォーターマンデート」とウォーターCDPの報告条件の調整。
- ネスレウォーターズ・スイスのエコ・ブロイエプログラムの“生態学的回廊”。

1,500
ヘクタール

スイス

ネスレウォーターズのパートナーシップアプローチ

2007年にミネラルウォーターのヘニエブランドを買収して以降、ネスレウォーターズのエコ・ブロイエプログラムでは現地とのパートナーシップを大切にし、スイスのこの地域の天然資源の保護と農村の人々の収入維持に協力してきました。ステークホルダー自身によって拡大されるこのイニシアチブには、農村の人々が参加し、以下の活動を行います：1,500ヘクタールの農地に“生態学的回廊”を確立し、地元の生物多様性を保護・活性化；地表水の水質を改善するブロイエ川の支流の有機濾過；ネスレの管理下で有機農場の廃棄物をクリーンエネルギーに転換するバイオガスダイジェスター。

左：スイス、ヘニエにあるネスレウォーターズの工場に水を供給する濾過区域でサンプル採取をするネスレウォーターズ水資源担当者マイケル・マーコード

“

ネスレは水資源に対する会社全体の方針について経営陣レベルの責任を明らかにし、現地対策を行うことで水関連リスクを減らし、会社の長期的な成功にとって水がいかに重要かを証明しています。”

CDPウォーター・ディスクロージャー責任者
マーカス・ノートン

CDPウォーター・ディスクロージャー・プロジェクト
ネスレは財務および政策決定には透明性の高い開示が不可欠と考え、CDPウォーター・ディスクロージャー・プロジェクトに積極的に参加しています。私たちはカーボン・ディスクロージャー・プロジェクトのアンケートをカーボンだけでなく水も対象にするものに拡大することに協力し、2010年にはCDPのウォーター・ディスクロージャー報告書に最初に寄稿した企業の一社となったほか、2011年にも再び寄稿し、私たちが事業運営とサプライチェーンにおいて水関連のリスクをどのように評価、管理および対応しているかを詳細に説明しました。また、CDPサプライチェーン・リーダーシップ・コラボレーション・イニシアチブの一部として、2007年よりサプライヤーの評価を行っています。

ウォーター・フットプリント・ネットワーク
ネスレは2008年に設置されたウォーター・フットプリント・ネットワークのメンバーであり、作業部会に参加して2030年水資源グループで実施した作業に準じて民間セクターからの意見を提示しています。また、ベトナム、インド、英国、コロンビアでの水管理に関する私たちの実績を紹介しています。

主な課題への対応：

水利用の影響を評価する基準の開発
現在グローバルな基準がないため、世界の企業はさまざまな方法を用いて水利用の影響を評価しています。ネスレは、国際的に一貫性のある測定・管理ツール、プロセスおよび手順をサポートし、新しい「ISO 14046 基準 ウォーター・フットプリント - 条件とガイドライン」の開発に積極的に参加しています。ライフサイクルアプローチに基づき、この基準では製品、プロセスおよび組織の水に対する影響を評価する原則、条件およびガイドラインを示します。また、水資源や排水、地域の環境や社会経済的条件をどのように考慮すべきかについても明確化します。2014年までにこの基準を完成させる予定です。

ウォーター・スチュワードシップのアライアンス
近年結成されたアライアンス・フォー・ウォーター・スチュワードシップ（AWS）の参加企業として、私たちは他の参加者と協力して今後2年間で自主的な認証プログラムを確立し、新しい国際ウォーター・スチュワードシップ基準に対する水管理者と利用者の順守状況または支持状況を証明できるようにする予定です。この自主基準は、企業が水使用の測定、管理、ならびに他者との協力を行い、自社の活動を越えてウォーター・スチュワードシップの実践を改善することに役立つだけでなく、水関連の影響を軽減する規制面での努力を補うものとなるでしょう。

オンライン資料
- www.nestle.com/csv/Water
- www.cdproject.net/water
- www.allianceforwaterstewardship.org

フランス

製品と環境に関する消費者への情報発信

ネスレ・フランス、ネスレウォーターズおよびネスレ*ネスプレッソ*は、フランスの消費者への製品と環境に関する情報発信に関する国の試験的試みに参加しています。2011年7月にフランスのエコロジー・持続可能開発・運輸・住宅省が開始したこのイニシアチブでは、*ヴィッテル*、*ネスカフェ*、*ネスプレッソ*といった製品の環境パフォーマンス（温室効果ガスの排出、水、生物多様性）についての情報が発信されます。1年間にわたるこのプロジェクトによってフランスで販売される製品に必要な環境に関する情報表示が明らかになるでしょう。消費材の評価に関する同様のテストが欧州委員会によって始まっており、*ネスプレッソ*、*ネスカフェ*、*ヴィッテル*、*キットカット*および*ピュリナ・グルメ*といったブランドが参加しています。また、欧州委員会と共に欧州食品持続可能消費・生産座談会の議長を務め、食品の環境への影響を評価する統一的な方法の開発に関わっています。
上：パリの*ネスプレッソ・ブティック*で*ネスプレッソ*製品のバーコードをスキャンして環境への影響を確認しているお客さま

コロンビア

水管理の改善

スイスアクア・プロジェクトを通じて、スイス開発庁とコロンビアのスイス企業連盟と協力し、製品のライフサイクルを通じた水使用の影響を評価しています。このプロジェクトでは、従来の林間放牧システムでの水利用量を算定し、農村の人々の水管理を支援してフロレンシアとブガラグランデの乳製品工場とサプライチェーンにおける水管理を改善し、ネスレ製品の環境パフォーマンスの向上を目指しています。

下：水の価値と保全に関するワークショップの後、エクアドル、モンタニタの酪農家とその家族と一緒に苗木を植えるネスレのレオナルド・マンリーク（右）。

エクアドル、モンタニタの酪農家とその家族に対するワークショップでは、現地の水に関する問題を調査しました。

企業での取り組み

水の利用効率アップに向けたここ何年かの取り組みではかなりの進歩が見られましたが、課題はまだ山積みです。私たちは事業運営全体を通じて厳格な水管理基準と節水プログラムを今後も推進していきます。

生産効率の向上

生産効率の向上に向けた取り組みの一環として、私たちは取水量の削減と再利用の増加、雨水利用などの代替水源の利用、製品の水効率を改善する継続的な取り組みに注力しています。また、清浄な水を環境に戻すことを目指しています。

水資源を管理するためのアクションプランの決定

ネスレの工場が直面する水関連リスクを評価することは、私たちの水資源管理努力をどの部分に集中させるかを特定するためには不可欠なことです。水の量と質が低下するリスク、すなわち「物理的なリスク」が、家庭、産業および農業目的の利用者間に競争を生じさせることも珍しくありません。

ネスレの工場は五大陸すべてで操業しており、地域ごとにサプライヤー、顧客、そして消費者が直面しているのと同じレベルの水ストレス（水の需給がひっ迫している状態）を実感しています。公表されている2つの主要な水ストレス指標（取水量と利用性の比率；2025年の1人あたりの予想年間再生可能給水量）の平均を用いたネスレの複合水ストレス指標から、ネスレの工場の40%が水ストレスを伴う地域に位置し、10%が深刻な水不足の地域にあると評価しました。特に水ストレスがある地域では、最も効率的に水を使う企業となることを目指しています。まず、工場周辺の水資源の長期的利用性を評価します。この評価に基づき、学術機関、市民団体および公共部門のステークホルダーと協働して、工場外の流域レベルで水管理に対処し、認識を高め、主な課題を特定し、行動計画を策定することを目指します。

上記のアプローチによって、ネスレの事業運営において水に対する人間の権利を尊重するのみならず、同時に総合的かつ長期的な現地の水の持続可能性に配慮することになります。

私たちは2011年に世界で11の場所、合計100の工場で水資源について審査を行いました。

水の利用効率の向上

私たちは食品メーカーの中で最も効率的に水を使う企業となることを目指しています。ネスレの取水量は2011年が1億4300万m^3(KPI)、すなわち製品1トンあたり3.17m^3(KPI)でした。これは2010年から4%減少しています。

2001年以降、食品や飲料の生産量が73%(KPI)増加したにも関わらず、取水量は28%(KPI)減少しました。例えば、ボトル入りウォーター事業であるネスレウォーターズの水の利用は、比較的小規模ですが、ボトルに詰める水だけでなく、洗浄や冷却に使用する水も製品化には必要となります。

私たちはさまざまな現場レベルのイニシアチブを通して、この洗浄や冷却用の水をボトル入りウォーター1リットルあたり世界平均で0.63リットルまで減少させました。これは2005年から2011年で36%の削減となります。

主な課題

- 水管理の課題の大半は工場外の問題であるため、ネスレの工場が取水に使う流域での共同取り組みを開発・支援すること。
- 事業の成長を確保しながら水使用効率の向上を維持すること。

目標

- 食品メーカーの中で最も効率的に水を使う企業として水資源の管理を主導すること。
- 業務を通して水の利用効率を継続的に向上させ、水の取水量と排出量を減少し、清浄な水を環境に戻すこと。

対策

- 水の利用性と品質を維持し、水の利用効率を含めたネスレ製品の環境への影響を改善することで、持続可能な水管理を経営上の意思決定に組み込むこと。
- 取水量を削減して水を再利用するプログラムを実行し、雨水利用などの代替水源を利用し、節水技術に投資すること。

パフォーマンス

- ネスレの工場では254の節水プロジェクトが行われており、今日までにネスレの100カ所の工場で水資源審査プログラムが実施され、節水と洗浄プログラムに年間2,800万スイスフラン(約24億9,000万円)が投資されている。
- 2001年以降、食品や飲料の生産量が73%[KPI]増加したにも関わらず、取水量は28%[KPI]減少。

アフリカ

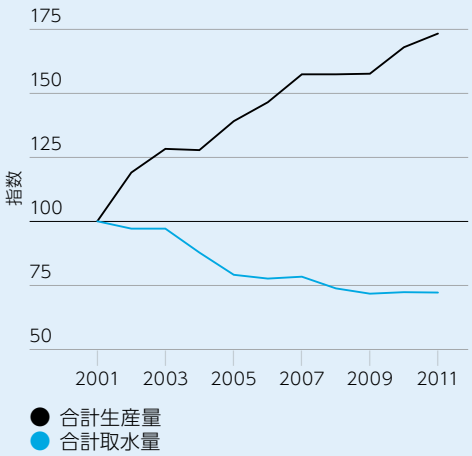
きれいな水を環境に戻す

ガーナ、テマのネスレの工場に、220万米ドル(約1億7,000万円)を投じて現地の公営施設を改良した新しい排水処理施設を建設しました。排水処理施設は2010年に操業を開始し、現地の環境規制と当社独自の基準に準じて、自社工場だけでなく、近隣のネスレ配送センターの排水も処理しています。コンゴ民主共和国の法律では汚水処理タンク以外は義務付けられていませんが、キンシャサのマギー工場では、ネスレの最新の排水処理施設が2011年10月より操業を開始しました。

左：ガーナのテマに建設されたネスレの排水処理施設でのネスレ工場長ルック・ニーセロンと環境・科学・技術省のクァミナ・クァソン

2.2
百万米ドル
(約1億7,000万円)

取水量対生産量　2001～2011年



節水プロジェクト

冷却水をかんがいに使うなど、生産工程の水を再生し、他の用途に再利用することで、2001年から2011年でネスレの工場排水は38%減少しました。2011年、私たちは排水量を減らすために780万m^3の水をリサイクルしました。

効率的な排水処理

私たちは公営の排水処理施設をできるだけ利用していますが、その効果が不十分な場合は自社施設に投資し、現地の法律と社内基準のうち厳格な方に従って処理した後の水を環境に返しています。ネスレには301の現地処理施設があり、2011年には新しい高性能施設の建設に600万スイスフラン（約5億3,000万円）を投じました。

2011年の総排水量は9,390万m^3で、化学的酸素要求量（COD）は1リットルあたり平均68.6mgでした[KPI]。

オンライン資料

- www.nestle.com/csv/Water
- www.nestle.com/csv/Environment
- www.nestle-waters.com

ナイジェリア

水の再利用と利用効率の最適化

アグバラの複合製造工場はナイジェリアにあるネスレの2つの工場のうちの1つで、マギーブイヨン、ミロ、セレラックなど、さまざまなブランドの製品を生産しています。アグバラの製造工場とネスレウォーターズの工場が近接しているため、これらをつないでネスレウォーターズの深井戸の余剰水をすべてネスレ・ナイジェリアの工場で利用できるようにした結果、水の利用率が減少し（最終製品1トンあたりm^3）、年間で10万m^3を節水することができました。アグバラ工場には独自の水処理施設もあり、法律で定められた1リットルあたり90mgのCODと1リットルあたり50mgのBOD（生化学的酸素要求量）という条件に準じた排水を環境に返しています。

「ネスレ・コンティニュアス・エクセレンス」活動による継続的な改善の結果、工場の多くでさまざまな節水イニシアチブが行われることになりました：

工場所在地	イニシアチブ	年間節水量
ベトナム、ラヴィ	周波数インバーターが生産ニーズに合わせて井戸からの流量を調整	150,000 m^3
イタリア、サンペレグリノ	ガラス瓶の洗浄や低温殺菌に再利用する処理済みの洗浄水	119,000 m^3
ナイジェリア、アグバラ	近隣のネスレ・ナイジェリアに送られて再利用されるボトル入りウォーター生産の余剰水	100,000 m^3
米国、アンダーソン	膜バイオリアクター・システムでは生産ラインで排出された洗浄水を処理して工場の冷却に使用	86,000 m^3
中国、双城	ボイラー用には濃縮した“乳牛水”（乳製品から抽出された水）を再利用	86,000 m^3
カナダ、グェルフ	周波数インバーターが流量を最適化、水タンクの収容量が増加	62,000 m^3
フィリピン、リパ	コーヒーメイトの倉庫の屋根で収集した雨水を冷却タワーで使用	9,600 m^3

フィリピン

雨水の採取と再利用

ネスレのリパ工場にはコーヒーメイトの倉庫の屋根などで雨水を収集し、冷却タワーに供給して補給水として使用するためのシステムが設置されています。これにより、工場の総取水量を約10,000m^3減少できると試算されます。

ナイジェリア

ナイジェリア国民に清潔な水を無料で提供

地元住民はナイジェリア、アグバラのネスレ工場から提供される清潔な飲料水を利用しています。

イタリア

水の再利用

ネスレウォーターズのサンペレグリノ工場では、ボトルのすすぎと洗浄に、水を1度ではなく2度利用するための「カスケード」システムを開発することで、衛生処理と製品の品質確保の全条件を満たしながら節水を行っています。

サプライチェーン

ネスレ単独でさまざまな水の問題に対処することは不可能であり、サプライヤーもまた重要な役割を果たします。私たちは何百万人もの農家の人々と交流することで、彼らの取り組みに協力し、適切な水管理方法を開発し、流域レベルで効果的な解決策を見出すことに力を注いでいます。

サプライチェーンにおける水の影響に関するパートナーシップ

「持続可能な農業イニシアチブ（SAI）」の水・農業作業部会でのリーダーシップを通じて、また、農場での水利用の効率化を目的に開発された手法の実施と検証により、ネスレは、流域レベルでの効率的な水管理を推進しています。

例えばインドでは、SAIが指揮し、国際半乾燥地熱帯作物研究所（ICRISAT)が運営する新しい試験プロジェクトにおいて、簡単なプログラムを使って水の影響を算出し、地形やかんがい条件別に水の必要量を判断しています。グジャラート、ラジャスターン、アンドラプラデシ地区内の5カ所で、米、ポテト、トマト、果物について検査した結果、このプログラムによって収穫量に影響することなく水使用量を約30～40%削減できることが判明しました。ICRISATは雨期のトウモロコシと綿花についても検査を行う予定で、携帯電話を使って農家の人々にデータを提供してもらう可能性も調査しています。

コーヒー栽培における水使用の評価

多くのネスレ製品の主要原材料であるコーヒーの栽培では大量の水が使用されますが、既に水が不足している国で栽培が行われることもあります。水といった生産に関わる重要な要素やコーヒー自体が抱える潜在的なリスクについて理解を深め、定量化するために、私たちは2011年にスイス開発協力庁（SDC）、国際水管理研究所およびEDEコンサルティングと提携し、調査を開始しました。イニシアチブの内容は以下のとおりです：

- コーヒー栽培における農場レベルでの「消耗的な水使用」（生産で消費される水が還元されない）に関する国際的な評価；
- ベトナムのダクラクで行われた2年間の施設限定調査

ベトナムのロブスタ種コーヒーの生産量が急増したことで森林破壊と土地荒廃が進んでいることを考慮し、調査では小規模農家に水の価値を理解してもらい、水を最適に利用するための実践的な方法を提案する予定です。

SAIN水プロジェクト

「ネスレ 持続可能な農業イニシアチブ（SAIN）」は、農家の人々を支援し、世界全体で持続可能な開発を推進するイニシアチブで、2011年に開始から10年目を迎えました。SAINではミルク、コーヒー、カカオなどの幅広い原料に焦点を置き、水管理とかんがいにおける主な課題に対応できるようにしています。例えば：

- ベネズエラ、エルピナールの3つの農場では土壌浸食を制御する木を植え、家畜のために木陰を用意し、蒸発と流出による水分の喪失量を減少させました。
- 米国、フリーモントのガーバーベビーフード工場で処理される排水の90%は、地元の穀物のかんがいに利用され、現地の帯水層に返されます。

主な課題	目標	対策	パフォーマンス
• 複雑なサプライチェーンにおける適切な水管理手法を実践すること。 • ネスレが直接関わっているサプライヤー以外にも水管理に関するメッセージを伝えること。 • 適正な価格付け構成を欠くことが多い状況下で水の価値に対する農家の人々の認識を向上させること。	• 農業のサプライチェーンを通じて水が効果的に管理されるようにすること。 • ネスレのサプライチェーンの上流全体に関わる2,500万人の生活を守り、原材料が確実に入手できるようにすること。	• 現地のステークホルダーと協働して水の保全に関与すること。 • 他の食品会社と持続可能な水利用に関するベストプラクティスとガイドラインを共有すること。 • 「ネスレ 持続可能な農業イニシアチブ（SAIN）」を通して46カ国で持続可能な開発を推進すること。	• インドで新たに行われた「持続可能な農業イニシアチブ（SAI）」の試験的プロジェクトは、水使用量を約30～40%削減できることを示唆。 • ネスレの12の主要原料に関して責任ある調達に関するガイドラインを実践し、「原料農産物のサプライヤーに対する水利用ガイドライン」を拡大。

50%
水使用量削減

コロンビア

サプライチェーンの水管理に投資

ハルディン・アンティオキアに新たに設置されたコーヒー豆粉砕中央施設には、水消費量を半分まで削減し、排水を100%処理できる水処理設備が整っています。2011年にはこのコーヒー豆粉砕施設でネスプレッソのAAA（トリプルエー）コーヒーが初めて生産され、初回AAA限定製品としてグラン・クリュー「ジャナ」が9月に発売されました。

左：コロンビア、ハルディンにネスプレッソの共同出資でコミュニティ処理センターが新たに建設されたことで、コーヒー農家はより効率的にコーヒー豆を粉砕し、乾燥できるようになりました。

- インド、グジャラートのチコリのサプライヤーは雨水貯水池を作り、地元の地下水減少を緩和しています。
- 中国の雲南省にあるネスレのコーヒー栽培実践農場では、収穫後用の新しい設備を導入したことで、水使用量が2010年には80%減少しました。
- スイス農業大学とのパートナーシップでは、最新のRISE 2.0（反応誘導型持続可能性評価）ツールを使用して、メキシコのテレオン自治体にある13の酪農場で水使用の持続可能性を向上させています。

ネスプレッソAAA（トリプルエー）プログラム

*ネスプレッソ*にとって最も重要なコーヒー供給国の1つで、AAA指定農場の数が最も多い国であるコロンビアでは、AAAプログラムの2つの優先事項として、近年低下傾向の生産性を回復しようとする地元のコーヒー栽培監督機関と協働し、この地域のコーヒー産業の主な課題の1つである水管理に対応しています。

2011年末時点で、コロンビアの37,000の農場が既にAAAプログラムに参加しています。*ネスプレッソ*は、コロンビアコーヒー生産者連合会などのパートナーと密接に協力して、水保全の問題に対処する革新的で効率的なソリューションの開発に務めています。その第1弾として、2010年から2011年の間に設置の2,700件を含む、17,000の水処理設備の設置があります。イニシアチブの第2弾としては、ハルディン・アンティオキアにコーヒー豆粉砕中央施設を共同出資で設置しました （25ページ参照）。

ギリシャでの現地コミュニティとのパートナーシップ

ギリシャでは、地域の水源の水量と水質に対する潜在的な脅威を軽減するために、ネスレウォーターズのプロジェクトが地元コミュニティをサポートしています。2007年に始まったこのイニシアチブで、水理地質学的調査を実行し、現地の地下水の脆弱性の評価と水不足の可能性が低い地域での採掘候補地の特定を行いました。計画段階から地元ステークホルダーと協力することで、現地当局、農家の人々やその地域社会、そしてネスレ双方にとって有利なウィン・ウィンのアプローチを確保することができました。

責任ある調達と水管理に関するガイドライン

ネスレでは近年、農業における水の責任ある利用に関するガイドラインを導入しました。このガイドラインは、該当する農業・林業関係の原材料すべてに適用されており、「ネスレサプライヤー規約」とネスレの12の主要農産物と包装材料について開発・導入されている「責任ある調達に関するガイドライン（RSG）」を補っています。水に関するガイドラインには農業における水管理の一般的要件と水ストレスのある地域に対する具体的な要件が含まれます。

また、最近では「SAI　水・農業プログラム」の10の原則を適用し、水の効率的利用、かんがい、汚染、干ばつに強い穀物、漏水の防止といった分野について農家の人々と共に取り組んでいます。こうした原則に基づき、私たちは責任ある調達に関するガイドラインを通して「原料農産物のサプライヤーに対するネスレ水ガイドライン」を主要原料に適用しています。調達担当の人員、サポートスタッフ、農家の人々に情報提供、研修、教育を行うための新しい資料も開発しています。

オンライン資料
- www.nestle.com/csv/Water
- www.nestle.com/csv/RuralDevelopment
- www.nespresso.com/ecolaboration
- www.saiplatform.org

インド

パートナーシップと啓蒙活動

パンジャブにおけるミルク、小麦、米の生産の水使用傾向に関するネスレと国際水管理研究所の2010年の合同調査において、地下水の水位が農業への過剰使用によって急速に低下していることが判明しました。これを受け、ネスレ・インディアは、パンジャブの酪農農家への啓蒙プログラム、ならびに学生向けに地下水の過剰使用の影響と可能な改善対策を明確にするプログラムを作成しました。

2011年にネスレは、「米強化システム（SRI）」、すなわち少ない種子、殺虫剤、肥料、水で収穫高を増加させる南インドの非政府組織指導による革新的な水田耕作技術について学ぶため、農務省のプロジェクトに参加しました。このプロジェクトでは夏の収穫についてSRI農法を用いた場合と用いなかった場合の収穫高を比較しており、結果が良好であれば、この技術を私たちの生乳サプライヤーにも拡大する予定です。

上：インド、モガのネスレの工場近くで行われた農家向けの水に対する啓蒙プログラムに参加したネスレのアマン・バジャブ・スッド（左）と農家のハリンダー・カウル

南アフリカ

長期干ばつへの対処

南アフリカの西ケープ州は長年干ばつに見舞われ、モーゼルベイ近くのダムの水位は満水時のわずか10%になることもあります。対策として、モーゼルベイのミルク工場では生産ラインで生じた蒸発器凝縮水を再利用する装置を設置し、2009年10月から2010年5月までの水の使用量を半減させました。工場の外でも、バリューチェーンの上流での水利用を最適化する「ネスレ 持続可能な農業イニシアチブ（SAIN）」プロジェクトにダムの集流域にある5つを含む17の酪農農家が参加しており、ミルクの生産量の増加に取り組んでいます。ネスレ農業サービス部門や地元の専門家が、土壌の水分調査、土壌の肥沃度管理、かんがいスケジュール、干ばつに強い穀物の使用を援助するため、研修や金銭的支援を行っています。

南アフリカ、モーゼルベイのネスレの工場にミルクを供給するゴウ・アケル農場でかんがいの状況を評価するアントン・ローツ

コミュニティとの関わり

ネスレが原材料の供給を受けている地域の開発とクオリティ・オブ・ライフ（生活の質）には、十分な水があり、それを利用できる状況であることが不可欠です。そのため、ネスレは事業を行う地域社会における水問題への対処に協力しています。周囲と協力しながら、私たちは世界中で行われている持続可能な水管理計画に対する資金調達、事業支援、研修に協力しています。

水、衛生および下水処理

2007年以降、私たちは国際赤十字・赤新月社連盟（IFRC）、コートジボワール赤十字社と、コートジボワールへの水・下水処理施設と衛生研修の提供のために協働しています。大人と子どもを合わせて既に6万人以上がその恩恵を受けており、今後3年間でプログラムを55の学校、65のコミュニティに拡大し、コートジボワールのカカオ栽培地域の住民少なくとも53,000人が恩恵を受けることになります。

2010年の大統領選挙後に深刻な内戦が勃発し、数千人の国民が退去を余儀なくされたことで、IFRCが2011年に計画していた活動を実施することは困難になりましたが、ネスレプロジェクトの技術スタッフは、支援の対象を、コートジボワールと隣国リベリアの50のコミュニティからなる31,000人の安全な飲料水と衛生に関する啓蒙活動に一時的に転換しました。コートジボワールでのネスレとIFRCの協働プログラムは、水と衛生、食糧確保、IFRC世界災害報告に対して225万スイスフラン（約2億円）を投じた「2010～2013年世界パートナーシップ」の一環です。また、2011年には、IFRC、日本赤十字社、およびアフリカ最東地域へ合計80万スイスフラン（約7,100万円）を超える緊急支援を行いました。

一方、インドでは、水に対する啓蒙プログラムが実施され、ネスレの工場周辺の学校に通う子どもたちの責任ある水利用を促進し、156の水飲み場の設置が行われました。これにより、66,000人の学生が清浄な飲料水を飲めるようになりました。

プロジェクトWETと「世界水の日」

プロジェクトWET（Water Education for Teachers）は教育ツールを用いて世界中の児童の水問題に対する認識の向上を図る国際的なNGOです。ネスレウォーターズは1992年以降、そのメインスポンサーとしてプロジェクトWETを支援し、ベトナム、中国、アラブ首長国連邦、レバノン、また最近ではエジプトなど、多数の国でのプログラム樹立に協力してきました。

毎年3月、ネスレウォーターズはプロジェクトWETと協働で「世界水の日」の普及に努めています。子どもと教師が水の祭典に一緒に参加し、自然、健康的な水分補給、適切な衛生習慣、病気の予防に淡水がいかに重要かについての認識を高めています。2011年には世界25カ国から1万人を超える子どもたちと400人のネスレスタッフがイベントに参加しました。

ネスレウォーターズ・ノースアメリカは、ハイチ地震に対する米国政府の緊急支援物資としてトラック87台分（330万本以上の水）を寄付しました。

ネスレウォーターズによる救援活動

自然災害が発生すると、水の供給源や流通システムに汚染や損傷が生じ、多くの場合、安全な飲料水が早急に必要になります。ネスレウォーターズは、NGOや現地当局と協力して、被災した地域にボトル入りウォーター、義援金、物流面でのサポートを提供するなどの極めて重要な役割を果たすことができます。2011年、私たちは日本、トルコ、タイ、米国の災害に対して救援を行ったほか、ハイチに対する支援も継続しました。2011年に、私たちは合計300万本以上のボトル入りウォーターを提供しました。

オンライン資料

- www.nestle.com/csv/RuralDevelopment
- www.nestle.com/csv/Stories
- www.projectwet.org

主な課題

- 8億8,400万人が整備された水源からの水を入手することができず、26億人が適切な下水処理設備を利用できず、最貧層の人々が水を購入するには最大で富裕層の10倍もの代金が必要という受け入れ難い現状の改革を支援すること。
- こうした現状が公衆衛生に重大な問題を引き起こしたり、ネスレの生産活動に関連した水の需要に対する利害衝突を悪化させたりする可能性があるため、必要とされる効果的な解決策を支援すること。

目標

- 水と衛生という人としての権利を実現するという万人の目標に貢献すること。
- 清浄な飲料水の入手手段と下水処理施設の設置、ならびに水、健康、衛生に関する教育を強化することで、ネスレが事業展開する地域周辺においてこの世界的な目標をサポートすること。

対策

- 非政府組織の専門家であるパートナーと協働し、地域社会で持続可能で技術的に整備された水管理計画を開発すること。
- ネスレのすべての事業所において社員とベストプラクティスを共有すること。
- 世界中のネスレの事業所周辺の学校や村で、水、下水処理、衛生に関するプロジェクトを実施すること。

パフォーマンス

- 2007年以降、国際赤十字・赤新月社連盟（IFRC）と協力して、10万人以上に水と衛生の利用手段を確保。
- 2011年には世界で、水と衛生に関する40のパートナーシッププロジェクトが実施され、2010年には126のネスレ工場がコミュニティに清潔な飲料水を提供。
- WETプログラム（Water Education for Teachers）を多数の国で実施。

8億
8,400
万人

コートジボワール

ミレニアム開発目標：飲料水の確保と下水処理施設の整備

管理されていない水源、あるいは現地の沼の水をそのまま飲料水として使っている人は、現在、世界に8億8,400万人います。下水処理状況はさらに悪く、水洗トイレ、公衆便所、適切な汚物処理といった整備された下水処理施設を利用できない人は26億人もいます。これらは共同で組織的に取り組む必要がある国際的な問題ですが、IFRCやコートジボワールの赤十字社と協働するなど、私たちができることに全力を注いでいます。

左：コートジボワール、セリヒオではボーリングにより地域の水源を確保しています。IFRC、コートジボワール赤十字社、ネスレの合同プロジェクトの成果の一つとして、2007年以降、6万人以上が整備された水施設や下水処理施設を使えるようになりました。

ネスレと水の未来

本報告書では、注力分野である「水資源」における「共通価値の創造」について、これまでの進捗状況と主な課題を述べてきました。以上の結論として、「水資源」の分野におけるネスレの今後について検証します。

2006年に初めて公表された水の利用と管理に関するネスレの「W.A.T.E.R.方針」は、私たちの事業活動、サプライチェーンおよび地域社会との関わりを通じて「水資源」の分野でのパフォーマンスを上げる鍵となるものです。こうした方針は継続的な見直しに基づいて発展させるもので、今後もステークホルダーから意見を集めていきます。2011年、これらの方針について社内で広範囲に及ぶ評価が行われ、同時に外部の主要な専門家とも協議をしました。その結果が右の5つの方針であり、ステークホルダー会議に参加した水の専門家の貴重な意見を含めたフィードバックを収集しながら、今後内容をさらに改善していく予定です。

これまでご意見を下さった下記の専門家の皆さまに感謝の意を表します。ご意見は今後の活動の参考にさせていただきます：

- アシット・K・ビスワス教授、第三国水管理センターの提唱者；
- ジョン・ブリスコー教授、ハーバード大学 環境工学；
- コリン・チャーター、国際水管理研究所　所長；
- ジャン・ランドクビスト教授、ストックホルム国際水協会　上級科学顧問；
- スチュワート・オーレ、WWFインターナショナル　淡水担当理事；
- ガヴィン・パワー、国連グローバル・コンパクト副理事兼CEOウォーターマンデート代表；
- イスマイル・セラゲルディン教授、アレクサンドリア図書館館長兼学問・調査・科学・国際研究所の顧問委員

「W.A.T.E.R.」方針の主要パフォーマンス評価指標について

私たちは定性的な「W.A.T.E.R.方針」の確約に対するパフォーマンスの体系的な評価を可能にする一連の主要パフォーマンス評価指標を開発しています。この取り組みは現在進行中で、今後5年以上にわたってパフォーマンスを追跡できるような、包括的で厳格な指標を明確にする必要があります。そのためには、事業の幅広い分野での専門家との協議が必要です。流域レベルでの影響こそが、今日の世界的な水問題に対応する進捗状況の最終的な指標になりますが、私たちはこのレベルでパフォーマンス追跡の必要性とともにそのその難しさも認識しています。

ネスレ W.A.T.E.R. 方針

W ネスレの事業を通じて水の効率的な利用を達成するために尽力（Work）する
水源管理に卓越し、ネスレの施設における水の利用量の削減に優れた結果を出す

A 水に関して効果的な方針と管理体制を支持し提唱（Advocate）する
水に価値を置く公共政策をすべてのレベルで推進する

T 排水を効果的に処理（Treat）する
清潔な水を環境に返すための厳格な目標を設定する

E サプライヤー、特に農業関連のサプライヤーと協働（Engage）する
流域レベルでの影響に焦点を置いて水管理の改善を支援する

R 水の利用と保全に対する認識を高める（Raise）
社員、コミュニティ、消費者が水についての責務に関心を持つよう働きかける

ネスレにおける「共通価値の創造」

企業が長期的に成功をおさめ、株主にとって価値を創造するためには、社会にとっても価値のあるものを創造しなければならない　－　これがネスレが強く信じ「共通価値の創造（CSV）」と呼んでいる考え方です。コンプライアンスと持続可能な事業運営という強固な基盤に基づく「共通価値の創造」が、私たちが事業を展開する上での基本です。

私たちは、ネスレの事業活動の核となり、バリューチェーンに不可欠な分野において「共通価値の創造」が最も期待できる機会を特定しました。それは「栄養」、「水資源」、そして「農業・地域開発」です。

「栄養」を選択した理由は？
食料と栄養は健康の基本であり、世界をリードする栄養・健康・ウエルネス企業であるネスレ事業の基本だからです。

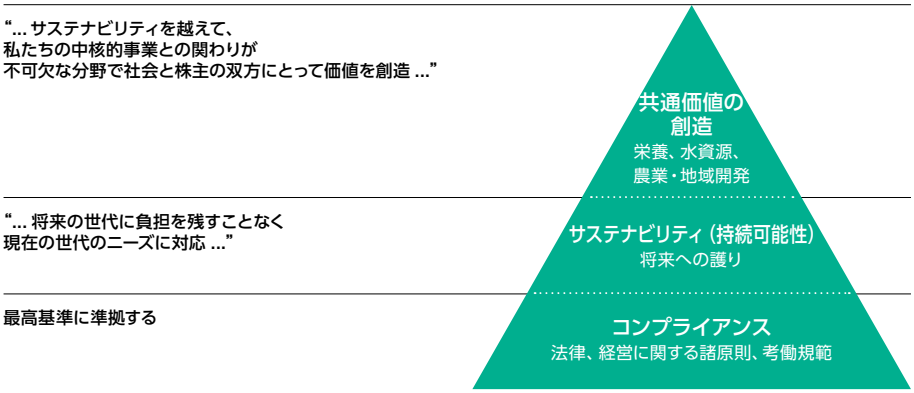
「水資源」を選択した理由は？
一定の品質の水をいつでも入手できるように維持することは、生活、食糧生産、およびネスレの事業展開に不可欠だからです。

「農業・地域開発」を選択した理由は？
農家の人々、地域コミュニティ、小規模事業の経営者やサプライヤーのウエルビーイング（望ましい生活状態）は、ネスレの事業の長期的な成功には不可欠だからです。

ここまでは、2011年度の「共通価値の創造（CSV）報告書要約版」の主要テーマである「水資源」に関する「共通価値の創造」について説明しました。

これ以降は、「水資源」との関係を強調しながら「共通価値の創造」の他の2つの注力分野、「栄養」と「農業・地域開発」について説明します。また、「共通価値の創造」の基本：環境サステナビリティ、人権とコンプライアンス、ステークホルダーとの関与についても報告します。

オンライン資料
- www.nestle.com/csv/Nestle
- www.nestle.com/csv/Stories



栄養

ネスレは、水、水分補給、健康の関連についての知識の普及に努めます。また、栄養に関する調査に協力し、公衆衛生の目標の達成をサポートします。社会は肥満から栄養失調に至る幅広い問題に直面しており、これらの課題にネスレは自社の役割を果たすべく取り組んでいます。

微量栄養素の強化と栄養分野の展望

微量栄養素欠乏症に陥りやすい低所得層を特に対象として、私たちは手ごろな価格の微量栄養素強化食品がより入手しやすくなるよう引き続き取り組んでいます。例えば、2011年末には、80カ国で微量栄養素を強化した手ごろな価格のミルク製品を販売しました。

消費者の栄養・健康・ウエルネスのニーズにできるだけ近づけた製品開発と情報公開を行うために、2010年に複数の先行実施市場で「栄養分野の展望に関する協約」を作成しました。この協約では、健康に関わる現地の専門家や当局との協力、さらに詳細な消費者調査により入手した微量栄養素の欠乏に関するデータなど、主要消費者のニーズに重点的に取り組みました。これにより、栄養的な優先事項がそれぞれに異なる幅広い層の人々へ、ネスレ製品群やそのコミュニケーションがどのようにより貢献できるのかが明確に把握できたのです。2012年にはこの協約をさらに充実させ、実行する予定です。

「Every Woman Every Child」プロジェクト

国連事務総長によって2010年9月に始動した「Every Woman Every Child」プロジェクトでは、政府、市民団体、および民間セクターに、弱者である女性や子どもの生活の向上に協力を促すことを目指しています。

2011年、私たちは食品・飲料企業として初めてこの取り組みに協力することを公言しました。私たちの取り組みは、パキスタンの酪農業やブラジルでの製品直配事業などといった収入を得られる仕事を通じて、女性にとってさらなる機会を創造することを主体としています。モロッコでは、子どもや女性に引き続き教育の場を提供し、スリランカとバングラデシュでは学校での衛生に対する認識を促し高めていく予定です。私たちは「ヘルシーキッズグローバルプログラム」を拡大し、子どもたちに栄養と運動の大切さを教えることで、健康に関する今日の課題に継続的に対応していきます。これらの取り組みは、ミレニアム開発目標に対する私たちの努力を反映しています。

FTSE4Good

ネスレはFTSE4Good（フィッチフォーグッド）社会的責任投資株価指数に乳児用調整粉乳メーカーとして初めて登録されました。

水、水分補給そして健康

毎日の水分補給に最初に選択すべきものとして、ネスレは水を推奨しています。水は人体を構成する主成分であり（乳幼児で75%、高齢者で50%）、非常に役割の多い成分です。栄養分の運搬を含め、さまざまな身体機能を確保するために、毎日十分な水分を補給する必要があります。

また、ネスレは、水、水分補給そして健康に関する科学的研究への資金提供も行っており、こういった研究は、私たちのボトル入りウォーター事業の発展を促し、公衆衛生の目標達成を支援しています。臨床試験やメタ解析、公衆衛生会議でのコミュニケーションに対する財政的支援も行っています。2010年、水、水分補給、人の健康に関して2つの科学総説が発表され、十分な水分補給のための水分の必要性、認知機能や身体能力の低下といった脱水症状の影響、またさらなる調査が必要な知識の欠落が報告されました。

水：喉の渇きをいやすために最初に選択するべきもの

途上国では、安全な飲料水の入手が非常に困難であることも珍しくありません。先進国であっても、職場や学校で水を簡単に入手できるとは限りません。万人に当てはまる解決策ではありませんが、ボトル入りウォーターによって世界中の多くの消費者に

栄養教育：「ネスレ　ヘルシーキッズ　プログラム」で提供された教科書を使っているナイジェリアの子どもたち。8歳から10歳の子どもを対象に2011年にナイジェリアで実施され、健康的なライフスタイル、バランスの取れた食事と運動を推奨し、実施から6カ月で5,000人の生徒が参加しました。

安全で健康的な水分補給の手段を提供できます。

水はノーカロリーで身体への吸収が早いため、毎日の水分補給で最初の選択肢となります。調査では、カロリーのある飲み物を水に置き換えようという医療専門家の助言によって、患者の総エネルギー摂取量を大幅に低下できることが示されています。

ただし最近まで、消費者の食生活全般のバランス達成のために政府が発行する食事摂取基準では、健康的な水分補給についてほとんど言及されていませんでした。世界中で過体重と肥満が増加していますが、同時に必須栄養素の欠乏症も存在していることを考慮すると、健康的な食生活における水や、栄養のある飲料、その他の水分の役割に対する認識を高めることが、公衆衛生において優先すべき重要な点になります。ミネラルウォーターの中にはカルシウムやマグネシウムなどの必須ミネラルを豊富に含むものがあります。

健康的な水分補給の推進

水を飲むことを含めた健康的な習慣は、幼少期に身につけるのが理想的です。調査では、母親たちは、適切な水分補給の重要性を認識し、子どもの水分補給を不十分と感じている一方で、どの程度の水分が必要なのかわかっていないことが判明しました。

親たちの理解を促す目的で、私たちは水分補給について興味を引き教育的意味を持つ助言を行いたいと考えています。公共媒体を活用したコミュニケーションキャンペーンや「ネスレ・ニュートリショナル・コンパス」には実用的なヒントが記載されています。水分補給に対する認識を高め、楽しく飲んでもらえるように、さまざまなボトル入りウォーターの味わいをラベルに表現し、子ども用のランチボックスに入れるボトルは、子どもの小さな手でも持ちやすく楽しい形になっています。

子どもたちの世話をする親以外の人びとにも働きかけています。例えば、教師には健康的な水分補給を訴えるツールキットを「WETイニシアチブ（28ページ参照）」で、そして「ネスレ　ヘルシーキッズ」のカリキュラムの中でも徐々に提供を増やしています。この「ヘルシーキッズ グローバルプログラム」にはすでに400万人の子どもたちが参加し、50カ国以上で実施されています。

さらなる啓蒙活動として、ネスレ・ニュートリション・インスティテュート（www.nestlenutrition-institute.org）は医療専門家に健康的な水分補給に関する最新情報を提供しています。

主な課題への対処：

母乳代替品の販売とWHO規約

ネスレは、生後6カ月は乳児を母乳のみで保育し、その後医療専門家の助言に従って離乳食を導入しながら母乳保育を継続するという世界保健機関（WHO）の国際公衆衛生に関する提言を支持しています。私たちは人生の最善のスタートとして母乳保育を奨励し、安全な代替品が必要な場合に備えて高品質な母乳代替品を製造することで、乳児に安全で適切な栄養を届けることを目指しています。

私たちは自社の取り組みと、母乳代替品の販売に関する世界保健機関の国際規約（WHO規約）の順守と実行を明確化した確固たる方針を策定し、明確な手順マニュアル、社内監察システム、社内・社外監査、スタッフの研修、母乳代替品の販売とコンプライアンスに関する報告から成る詳細なグローバル管理システムを適用しています。2011年、社内監査員が22カ国の監査を行い、第三者機関のビューロー・ベリタスがラオス、カメルーン、ジャマイカで独自に規約順守調査を行いました。

2011年3月、私たちは母乳代替品の販売に基準を持つ世界で唯一の指数であるフィナンシャル・タイムズの社会的責任投資株価指数（FTSE4Good）（フィッチフォーグッド）に、他のいくつかの企業と共に、調整粉乳メーカーとしては初めて登録されました。この指数は企業が世界的に認められた企業責任基準を満たしていることを投資家が容易に確認できるようするため開発されました。プライスウォーターハウスクーパースは、ネスレの方針と手順を厳格に評価した後、当社の本部とインドとザンビアの事業所で妥当性評価を実施し、その業務内容について現場レベルでエビデンス調査を行いました。

オンライン資料

- www.nestle.com/csv/Nutrition
- www.ftse.com/Indices/FTSE4Good_Index_Series/FTSE_BMS_Criteria.jsp
- www.everywomaneverychild.org

農業・地域開発

水は農業と地域経済の発展に不可欠です。私たちは農家と地域社会のレベルでステークホルダーと協力して水の問題に取り組み、私たちの事業展開に関わっている農家やコミュニティの発展に貢献したいと考えています。

農産物の調達

私たちの工場があることで生じる農業・地域開発への影響に加えて（途上国の工場の73%は農村地域に所在）、私たちはミルク、コーヒー、果物や野菜などの原材料を直接農家から調達したり、その他の物品も複数の取引ルートを通じて購入しています。どちらの場合も、ネスレの調達業務は、最適な農法の採用、環境、社会、経済的側面への配慮、そして「ネスレ サプライヤー規約」を通して、持続可能性と「共通価値の創造」を推進しています。

「ファーマーズ・コネクト」と呼ばれるネスレのサプライチェーンモデルを通じて、私たちは68万人の農家の方々から直接購入し、生産能力の向上や、持続可能な事業や水の管理に関する研修に関わっています。2011年には20万人の農家の方々に研修を行い、45,651人に財政支援を行いました。資金提供の合計は5,940万米ドル（約46億9,000万円）で、そのうち2,490万米ドル（約19億7,000万円）をネスレが直接拠出しました。

責任ある調達

より複雑な取引ルートから調達する原料や包装資材について、私たちは2段階のプログラムを通じてコンプライアンスと持続可能な実践を推進しています。

第1段階では、私たちの「責任ある調達監査プログラム」を通して、「サプライヤー規約」に基づいた主要取引先の評価を行い、その業務の改善を支援します。2011年末までに、私たちは目標の1,735を超える、全主要サプライヤーへの1,910件の監査を行いました。また、サプライヤーには倫理的な職場慣習に関する独立した世界最大のデータベースである「サプライヤー倫理データ交換（Sedex）」に登録し、その業務を自主評価するよう依頼しています。

第2段階として、私たちの新しい「責任ある調達のトレーサビリティプログラム」は、農家または供給原料レベルまで延長したサプライチェーンにおける可視性と責任ある実践を目的としています。2010年に、パーム油および紙とパルプのサプライチェーンを開始点までさかのぼって位置付け・評価する取り組みを開始しました。

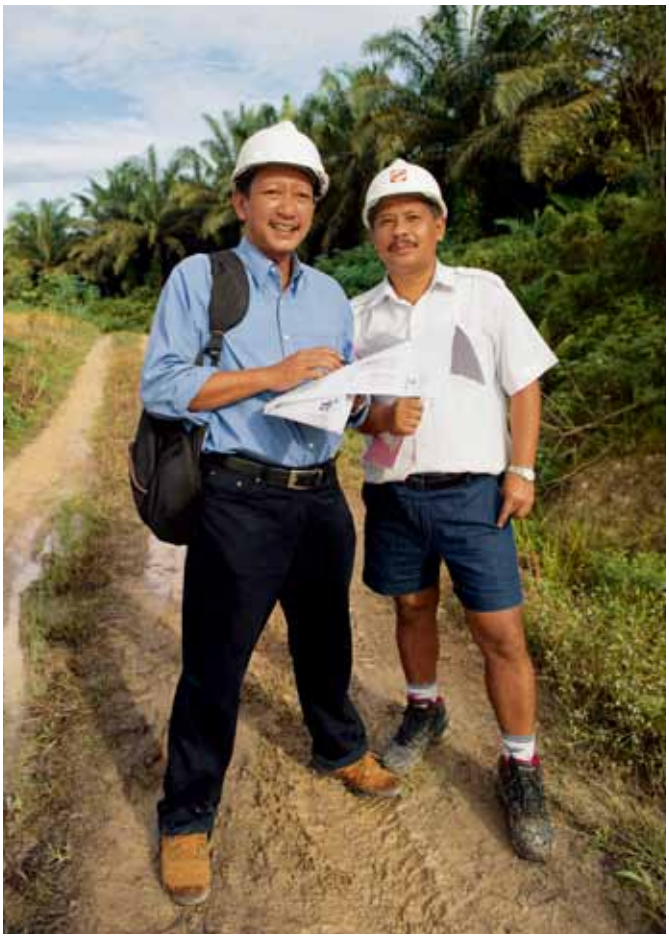
廃棄物と水の管理の改善：農業・地域開発を推進する中国での国連開発計画（UNDP）のプロジェクトの一環として、ネスレは中国北東部チャンヨン村の国営メタンガス生産センターを訪問しました。UNDPプロジェクトマネージャの張 衛東（右）とセンター長

したが、2012年末までには、ネスレの主要原料であるコーヒー、カカオ、ミルク、さらに大豆、シーフード、肉・鶏肉、バニラ、ヘーゼルナッツ、シアなどその他の優先原料を含む合計12の主要原料と包装資材にも広げる予定です。各カテゴリーについて、ネスレの「サプライヤー規約」に準拠した責任ある調達ガイドライン（RSG）を開発しています。

このプログラムでは、森林伐採と森の管理、そして農業サプライチェーンにおける児童労働に対するネスレの方針を実行し、農業における水の責任ある使用に関するガイドラインを制定して、個々のサプライチェーンにおけるその他の社会的・環境的側面に対応しています。

公正労働協会との協力

ネスレは、非営利で、さまざまなステークホルダーの協力組織である公正労働協会（FLA）と、食品企業としては初めて協働しています。私たちはまず、原材料のヘーゼルナッツのほとんどを購入しているトルコと、カカオのほとんどを購入しているコートジボワールのサプライチェーンに取り組んでいます。カカオのサプ



森林管理：ネスレはフォレストトラスト（The Forest Trust, TFT）と提携して自社サプライチェーンからの森林破壊の排除に取り組んでいます。インドネシア、中央カリマンタンのパーム油農場でサプライヤーの責任者と共に「ネスレの責任ある調達のガイドライン」の監査を実行するTFTのボビー・バユ・プラコソ（左）

ライチェーンは長くそして複雑です。そのため、食品企業が使用しているカカオがどこから調達され、そしてどのような状況で収穫されたのかを証明することは困難です。「カカオプラン」での取り組みを基盤として、FLAはコートジボワールや児童労働の実態が見られる地域に第三者機関の専門家を派遣し、その根本原因を特定してネスレに永く持続可能な対処法を助言します。

現地での持続可能な穀物生産

私たちは、オーストラリアの農家に干ばつや病害に強いオーツ麦2種類を紹介しました。これはシリアル製品である*アンクルトビー*製品に使うオーツ麦をカナダから輸入しなくてもよいようにするためです。同様に、ネスレ・ニュートリションはスペインのバリャドリド地域の農家や製粉業者と協力し、アフリカやアジアから調達するのではなく、この地域での粟の生産を促すことで原料の質を確保し、事業展開を推進しています。

「共通価値の創造」のアクションプラン

ネスレの長期的な成功のためには、私たちに農産物を供給してくれる農家が、安定した地域社会において有望かつ持続可能な事業を行えるようにしなければなりません。これはコーヒーやカカオに対する私たち独自の取り組みの最も重要な点です。

「ネスカフェプラン」は私たちのコーヒーサプライチェーンを最適化する世界的なイニシアチブです。このプランでは2020年までに5億スイスフラン（約445億円）を投じ、収穫量の多いコーヒーの苗木2億2,000万本の配布、3万軒の農家に対する研修や技術支援の提供、コーヒー栽培地域における社会的なプロジェクトのサポートを行う予定です。2011年8月に、私たちの取り組みの一つとして、ベトナムの新しいコーヒー工場に2億3,000万スイスフラン（約205億円）を投じました。

「ネスレ　カカオプラン」は、1億1,000万スイスフラン（約97億9,000万円）を投じる10年がかりの計画で、カカオ農家が直面している重要な課題に取り組み、その家族や地域社会がカカオ栽培のよりよい未来を創出することを目的としています。2011年、私たちは19,115の農家に研修を行い、収穫量が多く、病気に強い苗木824,000本を配布しました。さらに、提携するパートナー10団体を認定し、このプランをインドネシアに拡大しました。

2012年には、欧州のカカオの25%と世界全体の供給量の11%がこのプランを通じて調達され、私たちは世界カカオ基金のエコープログラムと協働して今後4年間に西アフリカに40の学校を建設し、140の奨学金を提供する予定です。

UTZ（ウツ）認証カカオ協同組合

「カカオプラン」により、私たちが協働したカカオ農家の多くが、UTZ（ウツ）認証を取得しました。この認証は、カカオ、茶、コーヒー農家に責任ある効率的な栽培法を推進する一連の基準として世界的に認められているものです。例えば、コートジボワールではUnion des Coopératives de Gagnoa (UCDG) という組合が2010年以降、1,200トンを超えるUTZ認定カカオ豆を配布し、ネスレでは農園再生のために3万本の苗木を提供しました。

酪農業とバイオガス

ネスレのミルク生産地区の発展は、酪農家へ収入獲得の機会を提供します。私たちはバイオガスの消化槽への助成により、牛の糞尿堆肥を適切に保管して水の汚染を防ぐとともに、家庭での調理、照明、空調、さらにミルク用設備への電力供給にメタンを再利用できるよう農家を支援しています。2011年、メキシコのネスレ工場に供給されたミルクの少なくとも35%がバイオガス設備を持つ酪農家から調達されました。

オンライン資料

- www.nestle.com/csv/RuralDevelopment
- www.thecocoaplan.com
- www.nescafe.com/sustainability

環境サステナビリティ

ネスレは、天然資源、特に淡水と生物多様性に支えられており、私たちの事業や地球が直面している環境課題への対応に、決意を持って自らの役割を果たしていきます。私たちは環境への影響を継続的に改善し、おいしくて栄養価値が高く環境に優しい食品や飲料を生産することを目指しています。

環境への責務

世界をリードする栄養・健康・ウエルネス企業として、ネスレはよりおいしく栄養価値があり健康的な食品と飲料を通じて、すべてのお客さまに喜びをお届けすることを目指しています。私たちは、こうしたウエルビーイングの考え方には、未来の世代のために環境を保護できるような責任ある手法で製品を生産することも含まれていることを理解しています。私たちの環境への責務は3つの原則に基づいています：

- 現在そして未来の社会に対する私たちの責任；
- 消費者に喜びをお届けしたいという願い；
- 高品質な食品と飲料を生産するために必要な高品質な資源を供給できるクリーンな環境の必要性

農家から消費者までの製品ライフサイクルアプローチ

私たちは、ネスレの製品や活動が環境に与える影響を改善するために、農家から消費者に至るさまざまなパートナーを巻き込み、製品のライフサイクルアプローチを適用しています。サイクルのすべての段階において、私たちは天然資源、特に水を効率的に利用し、持続可能な方法で管理された再生可能な資源の利用を推進し、廃棄物ゼロとすることを目指しています。私たちはすべての製品分野についてライフサイクル評価（LCA）を実施しています。

エコデザインの役割

ネスレの包装資材のエコデザインには、パッケージング・インパクト・クイック・エバリュエーション・ツール（PIQET）、そしてボトル入りウォーターにはISO 14064-1とISO 14040/44認定のグローバル環境フットプリントツールを使用しています。私たちは、製品ライフサイクルのすべての段階で環境が受ける影響を評価・最適化するために、その分野の第一人者である科学者や専門家と協力し、製品の原材料と包装資材の両方に適用できるエコデザインツールの開発を始めています。

ネスプレッソ製品のライフサイクルを通じた環境への影響の理解：2011年、ライフサイクルアセスメントの専門機関であるQuantis社は、ネスプレッソで新しいLCA調査を行い、ネスプレッソマシンで一杯のエスプレッソコーヒーを入れるために検証したすべてのオプションの中で、ネスプレッソのアルミカプセルを使用後にリサイクルすることが、環境への全体的影響を考慮すると最良の方法であることを明らかにしました（www.nespresso.com/ecolaboration を参照）。上：リサイクルセンターで、返却された使用済みネスプレッソカプセルからアルミニウムが分離される様子

私たちの環境パフォーマンス

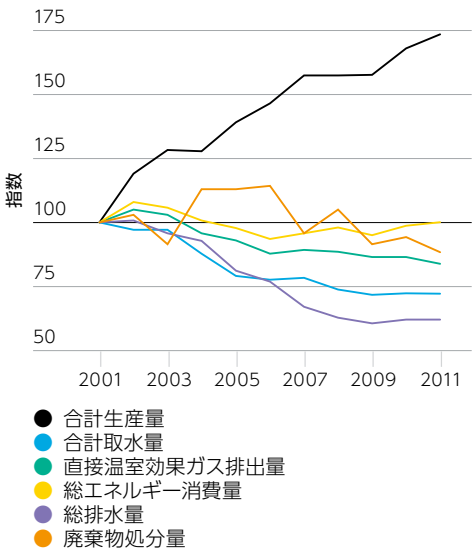
「ネスレ環境管理システム」の一環として、私たちは、水や再生不能エネルギーなどの天然資源の利用を減少し、温室効果ガスの排出を削減して無駄を省くことで、包装資材を含むネスレ製品の環境への影響を改善するプロジェクトを継続しています。

ネスレの製品に対する需要は増え続けていますが、私たちは水とエネルギー効率に長期的に取り組むほか、温室効果ガスの排出量と廃棄物の絶対量を削減するという具体的な目標を初めて明確化しました。

私たちが工場で使用するエネルギーの約12%は再生可能なエネルギーです。埋め立てゴミゼロを達成した工場が増えていますが、全体として、それ以上廃棄物を減らすことができない場合は、エネルギーの再利用、リサイクル、回収を行うようにしています。例えば、ネスレの32の工場のうち20では、生産過程で生じたコーヒーかすを再生可能なエネルギー源として使用しています。

リサイクル活動：米国ニュージャージーのランドルフ高校の生徒が、キープ・アメリカ・ビューティフルが主催し、ネスレウォーターズ・ノースアメリカがスポンサーとなったリサイクル・ボウル・コンペティションに参加。

2001年から2011年までの生産量に対する資源消費と廃棄物発生量



私たちは包装資材の重量と体積の最適化に取り組んでいます。2011年、資源最適化プログラムによって包装資材を重量[KPI]で39,000トン、金額にして6,500万スイスフラン（約57億9,000万円）相当を削減しました。包装資材には持続可能な方法で管理されている再生可能な資源を使っています。例えば、ブラジルのニンホのキャップ、フランスのヴィッテルのボトル、ピュリナワンbeyOndのバッグなどがそうです。

2011年末に461のネスレの工場のうち413が環境マネジメントの国際規格認証であるISO 14001[KPI]の認定を受けており、私たちはこの環境認定プログラムを配送施設や研究開発センターにも拡大しています。

また、サプライヤーとも協働してサプライチェーンでさらに持続可能な業務の実践を推進・援助しています。

リサイクル材料の使用

ネスレのハム製品のトレイや、特定のミネラルウォーター製品では、リサイクルPETを使用しており、ネスレはリサイクル材料の利用を徐々に増やしています。リサイクルPETを使用することで、化石燃料やエネルギーの消費、温室効果ガスを削減することができます。しかしながら、需要が供給能力を上回っており、生産業者、ボトル詰め業者、消費者、公的機関が直面しているさまざまな課題により、リサイクルされているPETボトルは世界的に見ればわずか3分の1に過ぎません。

また、使用済み包装資材をリサイクルする取り組みの支援を継続します。例えば、ネスレウォーターズ中国はオンラインのリサイクルキャンペーンと店内販促を組み合わせ、英国では、バクストンのリサイクル・オン・ザ・ゴープログラムによって、41のリサイクルポイントが地元に設置されました。

主な課題への対処：

製品の環境への影響について消費者の理解を促す

科学的根拠に基づいた製品に関するお客様向けの環境情報を、ネスレは継続的に充実させていきます。こうした透明性の向上は消費者の購入決定を促しますし、エネルギーと水の使用量削減、使用済み包装資材の適切な廃棄、回収、リサイクルの確保など、消費者の皆さまがネスレ製品を飲食される際の環境への影響を抑えるためにも、これらの情報を提供しています。例えば、フランスではネスカフェライフサイクルアセスメント（LCA）コミュニケーションツール、シンガポールでは携帯電話用無料アプリを導入しました。また、欧州とタイでの自主的イニシアチブに参加し、私たちの製品の環境への影響について情報を提供しています。

外部機関による表彰

- 環境持続性に対するネスレの取り組みに対して「第27回世界環境センター金賞」を受賞。
- 「ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックス」に選定。食品製造企業として2011年SAM-DJSI指数の環境セクションで最高得点。
- 気候変動に対する積極的なアプローチに関する「Global500カーボン・ディスクロージャー・リーダーシップ指数」に選定。食品製造企業として最高得点。
- メキシコでの“太陽熱温水器の適用におけるベストプラクティス”が「2011年国連開発プログラム賞」を受賞。

オンライン資料

- www.nestle.com/csv/Environment
- www.nestle.com/csv/Water
- www.nestle.com/csv/Stories

人権とコンプライアンス

「ネスレの経営に関する諸原則」では、ネスレの企業としての基本姿勢と順守すべき高い基準について述べています。これらの基準は会長とCEOが全面的に支持しており、ネスレの全社員に伝えられています。

責務とシステム

ネスレは、自社の社員には直接的に、そのサプライチェーンに含まれる企業などには間接的に影響を与えており、双方で人権と労働者の権利の原則の推進に務めています。

「ネスレの経営に関する諸原則」には「国連グローバル・コンパクト10原則」が組み込まれています（下記参照）。

私たちは企業と人権に関する国連フレームワークと指導原則にまとめられた「企業の人権尊重責任」に準じて行動しています。また、「世界人権宣言」ならびに国際労働機関（ILO）の基本条約を支持しています。

私たちのパフォーマンスの向上のために、2010年に制定された「ネスレ エンプロイー・リレーションズ・ポリシー」を補うものとして、2011年11月に一時雇用、外注、労働時間または賃金などを規定した労働条件と雇用に関する新しい規約が加えられました。

また、「ネスレの経営に関する諸原則」の変更ならびに新しい方針や手順を反映し、「ネスレ マネジメント及びリーダーシップの基本原則」が2011年秋に全面的に改訂されました。

「ネスレの経営に関する諸原則」の順守は、ネスレの第三者監査プログラムであるCAREプログラムに基づいた社外監査、ならびに監査部門による社内監査を通してモニターされています。2011年には110の施設がCARE監査を受けましたが、重大なコンプライアンス違反は発見されませんでした[G9]。

このCAREプログラムは、人権全般を網羅できるように2011年に見直しが行われました。

さらに、2011年第4四半期には、ネスレの方針や手順に関する懸念を社員が内密に提起するための新しい通告システムが導入されました。

国連グローバル・コンパクト（UNGC）

ネスレは「国連グローバル・コンパクト10原則」を採用しており、国連グローバル・コンパクトを率先して実践している企業グループからなるLEADの創立メンバーでもあります。私たちはUNGCの人権と労働に関する作業部会およびそのサプライチェーン助言グループに参加しています。私たちが事業を展開する国や地域がUNGCネットワークに参加することを奨励しており、進捗状況に関する年次報告（www.nestle.com/csv/Complianceを参照）では、人権、労働、環境、腐敗防止というUNGC原則の4つの分野の各々における取り組みについて説明しています。

社会情勢の改善に対する貢献：カカオ栽培地域の教育インフラを改善するネスレの取り組みの一環として、コートジボワールのマホウノウでは生徒で溢れかえっていた教室を新しい建物に造り変えました。

人権と労働に関する取り組み

2008年11月以降、人権に関する私たちの方針、システムおよび手順を見直すために、デンマーク人権研究所（DIHR）と協働してきました。この取り組みは、新しい「ネスレの経営に関する諸原則」と「ネスレ エンプロイー・リレーションズ・ポリシー」に反映されています。また、原則レベルでの取り組みについての情報発信を継続しており、人権に関する具体的な指標の設定を行っていますが、これについては、総合的なリスク管理システムの一環として年1回評価と見直しが行われています。

2010年7月、私たちは人権デュー・ディリジェンス（人権に関する詳細調査）に関してDIHRと2年間のパートナーシップを結び、人権に対する私たちの責務が世界中で果たされるよう務めてき

労働の権利：ネスレ・ナイジェリアでは人権に関する原則を業務に組み込むために積極的なアプローチを継続しています。2年に1度行われるMDユニオン・フォーラムは職場と産業の適切な関係を培うための対話形式の取り組みです。
右：ナイジェリア、オグン州に新たに建設されたフラワーゲート工場で組合員と面会するネスレの経営陣。

“

デンマーク人権研究所（DIHR）との協力により、国際的な事業と人権の分野でリーディング・カンパニーになるという私たちの目標達成が早まるでしょう。”

人事総務担当デピュティ・エグゼクティブ・バイスプレジデント
ジャン-マルク・デュボアサン

ました。ネスレの事業に関する総合的な影響評価は、2010年にコロンビアで、2011年には、ナイジェリア、アンゴラおよびスリランカで実施され、また、人権に関する研修オンラインツールを世界的に導入しました。リスクの高い国々で働く社員にとってこの研修の受講は必須です。

私たちは国際カカオイニシアチブと協力し、公正労働協会（FLA）と共に、ヘーゼルナッツとカカオのサプライチェーンにおける労働条件と児童労働に対し、食品企業として初めて問題に取り組み、カカオ栽培地域における教育の普及向上に務めています（34ページを参照）。2012年、私たちはFLAへの正式加盟を申請します。

コロンビアでは、スイスの6つの非政府組織の支持団体である労働団体南同盟Alliance Sudとの対話を続けています。5年間のやりとりを経て、この同盟は2011年6月にネスレの人権とその事業展開の影響について報告書を発表しました。世界的には、インドネシアでの労働紛争が解決した2011年3月に、国際食品関連産業労働組合連合会（IUF）はネスレに対するキャンペーンを中止しました。残念ながら、インドネシアのパンジャン工場における労使関係が2011年後半に再び悪化し、それによりキャンペーンが再開されることになりました。

安全と健康

安全と健康は基本的な価値であり、組織の全員が意識を高めるためのより良い方法を見出す取り組みの一環として、2011年にネスレのエグゼクティブボードはそのすべての会合で安全と健康に関する進展を確認することを決定しました。このモデルは、ネスレの各法人の経営会議や毎日のチームミーティングでも採用されています。

この数年間で特に生産などの業務分野において安全に関するパフォーマンス全体が著しく向上しましたが（2011年のパフォーマンス概要を参照）、私たちの目標は数値をゼロにすることです。引き続き死亡件数に注意を払います。残念ながら、2011年はネスレで勤務中に18人が亡くなりました[KPI]。そのうち14人は社員で（8人が交通事故で死亡）、4人は請負契約者でした。私たちは死亡リスクの管理（特に運転、建設、フォークリフト、機械操作）にさらに重点を置くこととし、広範な基準設定と業界のベストプラクティスを基に新しいプログラムを開発しています。ネスレにおける安全と健康の詳細については、www.nestle.com/csv を参照してください。

腐敗防止

2010年の徹底した腐敗防止評価に続き、私たちは包括的な贈収賄禁止プログラムの一環として対話的なオンライン研修プログラムを開発・実施し、社員による不適切な行動の回避に役立てています。

「ネスレ考働規範」に基づき、すべての社員は従来の報告手段または秘密保持が行われる現地の報告システムを利用して非合法的または不順守に相当する行為を報告することになっています。別の報告方法として、2011年に内密に報告できる通告システムを設置し、現在はグループ全体で運用しています（上記の「ネスレの経営に関する諸原則」を参照ください）。

母乳代替品の販売に関する世界保健機関の国際規約に対するネスレの順守状況は33ページを参照してください。

オンライン資料

- www.nestle.com/csv/Compliance
- www.nestle/com/csv/OurPeople
- www.humanrights.dk

ステークホルダーとの取り組み

ステークホルダーとの取り組みは、「共通価値の創造」（CSV）の基盤であり、新しい問題の特定、対応の決定、および実績向上の継続を可能にします。

ネスレのステークホルダー会議

2011年、私たちはロンドンとニューデリーでステークホルダー会議を開き、CSVパフォーマンスに関する議論、ステークホルダーの期待と懸念の理解、そして「水資源」、「栄養」、「農業・地域開発」の分野を中心としたCSV戦略の開発に関するアイデアを検討しました。会合はアカウンタビリティ社が進行役を務め、多国籍団体、NGO、産業協会、政府機関、学術機関、投資家、企業家など、25を超える専門家の参加を得ました。

これらの会合は、2008年のワシントンDC、2009年のジュネーブとクアラルンプールでの会議に続くものです。

ステークホルダーの方々はCSVの取り組み全般を支持し、会合の趣旨について大いに賛同してくださいました。関与する問題について幅広い議論が行われ、下記を含めた具体的な懸念分野が明らかになりました：

- 気候変動への適応戦略の重要性が高まっていること；
- 肥満と栄養失調の双方の問題が増え続けていること；
- 管理不良により土壌の健全性が損なわれていることと生物多様性の枯渇；
- 低所得を理由に農業人口が減少することで、農村地域のスキルと知識が喪失すること；
- 気候変動、水の過剰使用、水の不適切な管理による水ストレスと水不足の増加；
- 農地と水資源をめぐるバイオ燃料との競合；
- 長年にわたる児童労働の問題、ならびに地域開発におけるニーズの拡大と教育を受ける機会の関係；
- 農業における女性の重要な役割が十分に認識されていないこと。

乳児用調整粉乳の販売に関しては、ステークホルダーはネスレが業界で見せているリーダーシップには感銘を受けるが、信頼を回復するにはさらなる企業努力が必要だとしています。特に、ネスレがFTSE4Good（フィッチフォーグッド）を基本とし、適切かつ世界的に著名な組織の協力によって乳児用調整粉乳の販売に関連した情報を開示し、独立した外部調査を行える継続的システムを確立することが期待されています。

対話と関与：民間セクター、学術機関、政府および非政府組織のリーダーが2011年5月にワシントンDCで行われたネスレの第3回年次「共通価値の創造」フォーラムに集まりました。

ステークホルダーは下記の提案を含め、戦略的CSVの取り組み全体の改善についても多数の提案を行いました：

- 企業の協働のパートナーを民間団体や政府機関に拡大する；
- 将来のCSV目標に関して幅広い開示を行う；
- 得た知識をより積極的に共有する；
- 公共政策の問題をより積極的に主導する；
- コミュニティとの関わりをさらに積極的に引き受ける；
- 消費者行動に有益な影響を与えるような活動をさらに実施；
- 今後の会合ではより多くの上級経営陣の参加を得る；
- 事業全体にステークホルダーとの取り組みをより広範囲に取り入れる。

今後の「共通価値の創造」の取り組みの発展のため、すべての提案と提言を尊重します。ステークホルダーとの交流とフィードバックへの対応に関する詳細は、www.nestle.com/csv/Nestleをご参照ください。

日本での取り組み

世界各国のネスレと同様に日本でもさまざまな分野で社会とネスレ、その双方にとっての価値を創り出すネスレの進化したCSR、「共通価値の創造」（Creating Shared Value =CSV）活動に取り組んでいます。
ここでは「共通価値の創造」やその基盤分野も含めた幅広い事例を、より健康的な食生活のお手伝いをする「栄養」への取り組み、工場での取り組みを主とする「水資源と環境の保全」、社員に焦点をあてた「ネスレの人材」および「社会貢献・ボランティア」という4つの切り口で紹介するとともに、東日本大震災への対応についてもご報告します。

トップからのメッセージ

ネスレ日本株式会社
代表取締役社長 兼 CEO
高岡　浩三

ネスレのスイスでの創業の原点は、栄養不足による乳幼児の死亡率の高さに心を痛めた創業者アンリ・ネスレが開発した乳児用乳製品でした。1866年の創業以来、社会のために価値を創造し、それによって株主にとっての価値を創造するというネスレの基本的な戦略に変わりはありません。

昨年、社員が順守すべき基本的な価値観や諸原則をまとめた「ネスレマネジメント及びリーダーシップの基本原則」に、改めて“「共通価値の創造」（Creating Shared Value= CSV）が事業展開の基本”であることが明記されました。日々の業務で関わるさまざまなステークホルダーの皆さまにとって価値あるものを創造するためにできることを考え実践することが、社員一人ひとりの責務であり誇りでもあります。

1913年に日本で創業したネスレ日本グループは、おかげさまで2013年に100周年を迎えます。日本での私たちの使命は、グローバル企業としての強みを生かしつつ、日本の消費者の皆さまに、信頼のおけるブランドのもと、栄養的価値のある高品質な製品、そして喜びをお届けすることです。今後も、その使命を果たし、またさらなる価値をご提供することに全力を尽くしてまいります。

東日本大震災への対応

2011 年 3 月 11 日に東北地方を襲った東日本大震災と津波。
1995 年の阪神・淡路大震災で、神戸市内の本社ビルが倒壊する被害を受け、全国の皆さまから数多くのご支援をいただいた経験を持つネスレ日本グループでは、社員の安全、企業の社会的責任、事業の継続（高品質で安全な製品の提供）を 3 つの柱として、一日も早い復興に貢献するべく、食品飲料企業としてできることに、社員一人ひとりが取り組みました。
今後も被災地の復興に向けて貢献してまいります。

社員の安全

危機管理体制

ネスレ日本グループでは、震災発生直後、役員をメンバーとするクライシスマネジメントコミッティーを立ち上げ、被災地域の社員と家族のケア、および、製品供給の確保を優先事項として必要なアクションをとりました。また、ビジネス復旧に加えて、社員の勤務地移動計画、避難計画などを策定し、早急な対応を行いました。

携帯電話を活用した社内の“緊急時コミュニケーション・ツール”により、地震発生の当日中には、安否確認を終え、社員に人的被害がない旨が全社員へ迅速に伝えられました。

企業の社会的責任

食料支援

ミネラルウォーター、コーヒー・チョコレート製品、栄養補助食品、ペットフードなど合わせて約4万2,000ケースを食料支援物資として被災地へ提供するとともに、宮城県石巻市や南三陸町など、水道が復旧していない地域へは、2011年7月上旬まで定期的にミネラルウォーターを送りました。

また、小中学校への給食支援として、宮城県石巻市、東松島市内の小中学校と給食センター合計7カ所に成長期に必要な栄養をバランスよく補給できる栄養補助食品 リソース・ジュニア 約63,200食分を提供しました。

石巻市内の小学校での給食風景

ミネラルウォーター アローヘッド

避難所へ届けられたキットカット

義援金

日本のみならず世界のネスレ全体に義援金を募り、それと同額を会社からの義援金とするマッチング・ギフトを行い、総額約4,000万円を、ネスレがパートナーシップを結ぶ国際赤十字・赤新月社連盟を通じて被災者の皆さまにお送りしました。これらの支援に対して、感謝の意を表する手紙が国際赤十字・赤新月社連盟のゲレタ事務総長からネスレスイス本社CEOポール・ブルケへ寄せられました。

採用の拡大

被災され、2011年度入社の内定を取り消された方々、並びに2012年度新卒者を対象に「東北募集枠」を設定し、約10名を募集。また、2011年度中途採用（弊社製造工場における製造関連業務）について、通常の募集地域を拡大し、東北の被災地域の皆さまを対象に約10名の「東北募集枠」を設定しました。この募集枠によって採用となった6名が現在ネスレメンバーとして働いています。

製品での応援

「神戸から東北へ」応援の想いを届けたキットカット

2011年5月、阪神・淡路大震災を経験した神戸の人々が応援の想いを書き込んだ5万個のキットカットが、東北の被災地の皆さまに届けられました。また、1製品あたり10円が寄付される仕組みのキットカットずんだ風味により集まった寄付金1,200万円を、日本赤十字社へ寄付しました。

キットカット裏面のメッセージ欄に書かれたそれぞれの想い。力強い筆跡や、細やかな筆跡。どのメッセージにも「東北のみなさんに届けたい」という気持ちがあふれていました。

「ネスカフェで元気に!プロジェクト」

2011年8月に被災者の方々への支援のため、全国5カ所の「カフェ ネスカフェ」などでチャリティーサンプリングイベントを実施。5会場で配ったアイスラテの数は合計約2,000杯。イベント会場での募金額に会社からの支援金を加えた1,000万円を宮城県に寄付しました。

ネスカフェで元気に!プロジェクト

ネスカフェ エコ&システムパック

2012年3～4月中に販売した詰め替え用ソリュブル（インスタント）コーヒーネスカフェ エコ&システムパック1本につき10円を東日本大震災の被災地の支援資金とし、その支援活動のアイデアを全国の方から募集するという東北応援のキャンペーンを、凸版印刷株式会社と共同で実施しました。

「ネスカフェ エコ&システムパックで東北を応援!」キャンペーン

ネスレの関連企業である日本ロレアル株式会社が地域の皆さまの交流を図るために石巻市に建設したコミュニティカフェ「HANA荘」では、集う方々がくつろぎのコーヒータイムを楽しんでいただけるようネスカフェ バリスタをはじめとするコーヒー製品やキットカットなどをご提供しています。また、被災地の中・高校生の学習や受験を無償でサポートするNPO法人フローレンスによる「希望のゼミ 学習室」プロジェクトが、この「HANA荘」でも2012年3月から毎土曜日に開校されており、日本ロレアル株式会社とともに支援しています。

HANA荘ー「希望のゼミ 学習室」

三陸鉄道を支援する「キット、ずっとプロジェクト」出発進行!

「キット、願いかなう。」をブランドコンセプトとするキットカットは、東日本大震災で甚大な被害を受けた三陸鉄道（岩手県）の復興を支援する「キット、ずっとプロジェクト」を2012年3月より開始しました。また、1袋あたり20円の寄付ができるキットカットミニ ワールドバラエティを発売。Facebookを通じて世界中から集まった応援メッセージや地元の方々のメッセージで彩られた「キット、ずっと号」車両や駅舎が2012年4月から登場しました。

三陸鉄道「キット、ずっと号」と「キット、ずっとプロジェクト」実行委員会メンバー

ステークホルダーの声

三陸鉄道は、地元住民の足であり貴重な観光財産でしたが、東日本大震災により線路や駅舎を失い、現在も一部区間のみでの運行を強いられています。

この「キット、ずっとプロジェクト」で三陸鉄道の存在と魅力を世界に向けて発信することで、三陸鉄道の復興、また観光客の方々がまたここを訪れてくれることを目指したいと思います。

3月からの「キット、ずっと号」の運行、列車と駅舎の装飾や公開イベントなどで、地元の人や旅をする人の笑顔も増えてきました。キット、キット東北は笑顔になります。2014年の全線運行再開をご期待ください。

三陸鉄道株式会社
代表取締役社長　望月正彦

高品質で安全な製品の提供（事業の継続）

製品の安全性と品質の確保を強化するために、2011年3月末より、国内製造品すべてを対象に放射能検査を製品出荷時の検査必須項目に追加しました。また、全国の事業所での放射線モニターを開始し、現在も継続しています。

栄養

ネスレは、アンリ・ネスレが乳幼児用乳製品を開発し、子どもの命を救って以来今日まで、栄養・健康・ウエルネスに焦点をあてた事業戦略を培ってきました。
科学的な根拠に基づいて、おいしくて栄養的価値があり、かつ環境影響ができるだけ少ない食品飲料を提供するという大目標を掲げ、食品および食生活によるクオリティ・オブ・ライフ（生活の質）の向上を目指しています。また、栄養に関して明確で責任ある情報を発信し、消費者の皆さまの知識や理解に基づく食生活を支援しています。

「ヘルシーキッズ プログラム」で鬼ごっこを楽しむ子どもたち

ネスレ ヘルシーキッズ プログラム

子どもたちが生涯にわたる栄養や健康なライフスタイルの価値を十分に理解するための最良のツールは教育であるとネスレは考えています。世界中の学齢期の子どもたちの、栄養・健康・ウエルネスに関する知識の向上を目指して、ネスレは 2009 年より栄養教育プログラム「ヘルシーキッズプログラム」をスタートさせました。日本でも、小学校低学年を対象とした「からだづくり」支援プログラムを開始しており、2011 年度は、全国約 1,200 校、約 12 万人の児童にこのプログラムの教材を提供しました。プログラムは、からだと食べ物の関係を学ぶ「栄養プログラム」と、鬼ごっこでからだを動かす楽しさを経験する「運動プログラム」で構成されています。2012 年度には、内容をさらに充実させ、小学校高学年にも対応できるようにプログラムを発展させています。また、ネスレの工場がある地域の小学生や社員の親子を対象に「ヘルシーキッズプログラム」イベントも開催しています。

一般社団法人ニュートリション運動推進会議・
子どもの健康づくり委員会委員
(学) 服部学園理事長　内閣府「食育推進会議」
「食育推進基本計画検討会」委員
服部　幸應

子どもたちの現状と未来

食育が学校教育にも取り入れられますが、教育の場にこのようなプログラムを組み入れることは可能でしょう。児童心理学や脳科学でも、鬼ごっこのような群れ遊びは、12 歳ぐらいまでに経験しないと“大人”になれない重要な遊びですが、最近ではこの鬼ごっこなどをする子どもがめっきり減りました。食の面でも幼年期に親や家族と一緒に食卓を囲むことが減り、マナーを身につけ、コミュニケーション能力を育む機会が失われてきました。心身ともの栄養、人間としてのあり方など最良の教育の場の活用方法を、大人もしっかり考えていかなければなりません。“食卓こそ学校”なのです。スタートしたばかりの食育と運動からなるこの独自のプログラムが、実を結ぶよう願ってやみません。

食育活動

ネスレでは楽しみながら、すぐに役立つ栄養情報や食生活の楽しいヒントをご提供する出張料理教室「ネスレウエルネスキッチン」を開催しています。食生活で皆さまの関心が高い、カロリー、カルシウム、脂質、野菜の 4 つの栄養・健康に関わるテーマでの食育講座とネスレ製品で作るヘルシーメニューをセットでご紹介する料理教室と、コーヒーの豆知識やそのおいしい飲み方やアレンジの楽しみ方をご提案するコーヒー教室の 2 コースを揃えており、2011 年には、全国で 180 教室を開催、参加者総数は 6,500 人を超えました。

また、社員向け栄養・健康教育として 2007 年から世界一斉に開始した「NQ ニュートリショントレーニング」では、2010 年末時点で全世界で約 14 万 5 千人が受講を終え、日本でも全社員への研修を完了しています。継続的に、新しく入社した社員向けに研修を行っているほか、種々のツールで社員の栄養知識向上を図っています。

出張料理教室「ネスレウエルネスキッチン」

世界統一の栄養基盤

現在、ネスレは世界中で 10,000 種類以上の製品を扱っており、1 日に販売されるネスレ製品数は全世界で約 10 億個にも上ります。これらの幅広い種類の製品が、安全で健全な食品であることをチェックするため、ネスレはカテゴリーごとに、摂取を減らすべき栄養素の上限や不足しがちな栄養素の下限のルール化などを盛り込んだ独自の栄養プロファイリング基準を設けています。これらの基準を満たす製品が、「ネスレ栄養基盤」

を持つとされており、日本でこの栄養基盤を持つ製品は全製品の約 96％に達しています。2011 年に消費者庁からガイドラインが出されたトランス脂肪酸については、ネスレでは 1999 年に製品に含まれる量についての厳格な方針を定め、これを反映した栄養プロファイリング基準を導入して製品改良に取り組んできました。

栄養補助食品の分野で

ヘルスサイエンス事業では、患者さまやヘルスケアに関わる専門家のさまざまなニーズに応える栄養補助食品を提供しています。代表的なブランドに、ベッドなどで同じ姿勢でいることが多い方向けの*アイソカル*、小児からご高齢の方まで状況に応じた栄養補給のできる*リソース*、集中的な栄養管理が必要な場合の*ペプタメン*があります。これらは、現在、全国約 8,000 の医療機関や高齢者施設に提供されるとともに、コールセンターやウェブサイト「ネスレ ヘルスサイエンス ハートフルケア プログラム」を通じて、栄養ケアに関するさまざまな情報提供と製品の通信販売を行っています。

また、MNA（ミニ・ニュートリショナル・アセスメント）の啓蒙普及にも取り組んでいます。MNA は、高齢者の低栄養リスクの有無を、簡便かつ精度良く評価できるツールで 1994 年にスイスで開発され、現在では 20 を超える言語に翻訳されて多くの国々で活用されています。日本でもその有用性が高く評価され、日本静脈経腸栄養学会をはじめとする 20 を超える医学会や、全国で年間約 80 回も実施されている協賛セミナーを通じて紹介を行っています。

実際に東日本大震災の際の避難所でも活用されたように、特別な装置や専門家に頼らず、どのような場所でも一定の栄養スクリーニングができるという特徴から、MNA は 2011 年度の「グッドデザイン賞」を受賞しました。

グッドデザイン賞を受賞

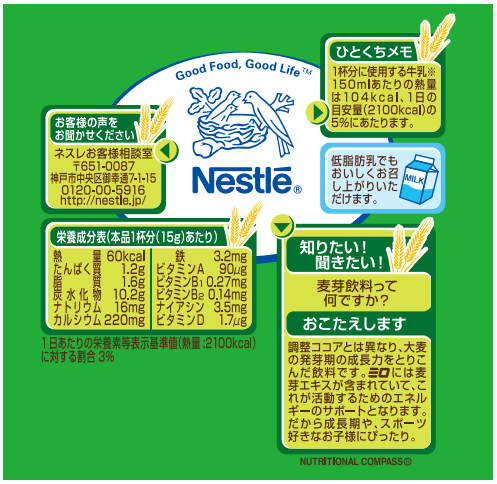
コミュニケーション

＜パッケージで＞

消費者の皆さまに十分な知識を得たうえで製品を選択していただけるよう、ネスレでは、現在ほぼすべての製品パッケージに、「ネスレ・ニュートリショナル・コンパス」という情報欄を設け、栄養成分表や製品の栄養や健康についての特長などを表示しています。

また、世界をリードするコーヒーブランド *ネスカフェ* では、コーヒーにポリフェノールが多く含まれていること、日本人が摂取しているポリフェノールの最大の摂取源が*ネスカフェ*であることを伝えるため、*ネスカフェ*製品のパッケージに「コーヒーポリフェノールアイコン」をつけています。

エネルギー（カロリー）を気にされる消費者に、エネルギーと上手に付き合い、健康的な生活をしていただくため、エネルギー量と、その栄養素等表示基準値（1 日の目安の 2,100 キロカロリー）に対する割合をコンパクトに表示した「カロリーガイド表示」も製品パッケージに記載しています。



***ネスレ ミロ*の製品パッケージに表示している「ネスレ・ニュートリショナル・コンパス」**

＜ウェブサイトで＞

ネスレのウェブサイトでは皆さまのウエルネスを応援する「ネスレ ココロとカラダのバランスマガジン」を発行し、栄養に関する知識を簡単に楽しく学べる食育ゲームをはじめ、ココロとカラダの健康に役立つ情報を提供しています。「マギーレシピサイト」では、脂質・塩分などにネスレ独自の栄養基準を設定し、すべてのレシピがその基準値内に抑えられるようにしており、野菜量、カルシウム、鉄分がたっぷりのレシピにはアイコンをつけ、分かりやすくウエルネスレシピとして紹介。

また、「ネスレ キッズチャレンジ」では、子ども向けの「キッズタウン」と、保護者向けの「ママパパタウン」の両ページで、健康や食育に役立つ情報を提供しています。

栄養・健康・ウエルネス企業を目指すネスレ社員自身が、「オイシイ想いやりであなたの気持ちを伝えよう」をテーマに、大切な誰かのために、簡単でヘルシー、そして美味しい料理の作り方を本社キッチンからお届けする動画サイト「想いやりレシピ TV」を新たに 2011 年より開始しています。

想いやりレシピ TV

＜スマートフォンで＞

2009 年 6 月から提供を開始したスマートフォン向けのレシピアプリ「ネスレ バランスレシピ」では、栄養の専門知識を持つ「食のプロ」が監修した約 1,700 件のレシピや、体重・摂取エネルギーの管理機能など、栄養・健康についての適切な情報をお届けしています。新たに、音声認識によるページスクロール機能や iPad 向け体重コントロールアプリの提供を開始するなど、継続的に開発・改良を行った結果、スマートフォンおよびタブレット向けアプリを合わせて、累計 150 万を超すダウンロード数を記録しています。

＜公開講座で＞

コーヒーに多く含まれるポリフェノールに関する最新の知見を広くお伝えするため、2011 年 5 月にお茶の水女子大学で開催された日本栄養・食糧学会で、ネスレ日本（株）協賛「コーヒーポリフェノールと健康」と題する市民公開講座を開講しました。

ネスレの研究開発ネットワーク

ネスレは、約 5,200 人を擁する私的機関としては世界最大の栄養研究のネットワークを有し、中心的存在であるスイスの「ネスレリサーチセンター」に加え、世界 28 カ所に研究開発センターを持っています。

2009 年、東京大学構内に健康と栄養の基礎研究を目的とした「ネスレリサーチ東京」が、「ネスレリサーチセンター（スイス）」の日本の拠点として開設されました。「食と生命」を切り口とした共同研究を立ち上げ、「コーヒーと健康」、「ヘルシー・エイジング（健康的な加齢）」、「メタボリックシンドローム」や「機能性食品」など健康と栄養に関するさまざまなテーマに取り組んでいます。

2011 年 11 月にはネスレリサーチ東京と東京大学寄付講座「食と生命」共同主催による「食と生命のサイエンス・フォーラム～コーヒーと糖尿病についての最新知見～」を開催しました。近年世界の 2 型糖尿病患者が急速に増え続けその予防に多くの関心が集まる中、本フォーラムでは最先端の研究者によりコーヒー摂取と糖尿病についての最新の研究成果が紹介されました。

日本での栄養科学の発展に寄与することを目的に 1993 年に設立されたネスレ科学振興会は、2005 年から「ネスレ栄養科学会議」へとその名を変え、引き続き若手研究者への助成、研究成果の報告会や公開講演会の開催ならびに学会などへの協賛を行っています。

フォーラムで講演をされるお茶の水女子大学大学院の近藤和雄教授

「食と生命のサイエンス・フォーラム」パンフレット

水資源と環境の保全

おいしくて栄養的価値があり、かつ、環境への影響を最低限に抑えた食品飲料をお届けするために私たちは、業務効率と環境パフォーマンスの改善に努めています。自社の事業範囲と製品に限らず、バリューチェーン全体に及ぼす影響について、ライフ・サイクル・アプローチを適用して吟味・評価を行っています。ネスレにとっても社会にとっても、よりよい未来と「共通価値の創造」に向けて、今後も取り組んでいきます。

ノンフロン二元冷凍装置（島田工場）

メタン発酵排水処理施設

島田工場（静岡県）では、2004 年に、約 3 億円を投じて、世界約 30 カ所のネスレのコーヒー工場の中で最初にメタン発酵排水処理システムを導入しました。この排水処理は嫌気性微生物（メタン菌）による有機物の分解処理で、蒸気などのエネルギーを必要としないため、工場でのエネルギー使用量が大幅に削減され、CO_2 排出量は約 12%削減されました。

さらに 2005 年からは、このメタン発酵排水処理システムから発生するバイオガス（主にメタンガス）をボイラーの補助燃料として利用しており、これによる省エネ効果は原油換算で毎時約 70 リットルとなっています。

コージェネレーションシステム

2004 年に姫路工場（兵庫県）、2006 年に島田工場にコージェネレーションシステムを導入しました。コージェネレーションとは熱電併給とも呼ばれ、発電時に発生した排熱のエネルギーを有効利用することで総合エネルギー効率を高めるエネルギー供給システムです。

姫路工場では、ＬＮＧ（液化天然ガス）をタンクローリー輸送して工場内のＬＮＧサテライトに備蓄する燃料供給方式を導入し、最大 92%という高い総合エネルギー効率（一般的には 70-80%）を達成。

これらテクノロジーの先進性・先導性が高く評価され、2005 年には第 9 回新エネ大賞を受賞しました。この新規システムにより既存設備と比較して約 19%の省エネおよび約 30%の CO_2 排出削減を達成しています。

また島田工場では、コージェネレーションシステムのみならず、脱臭装置、エアヒーターなど他の燃焼施設に至るまで、従来の重油燃料から環境負荷の少ない都市ガスへの転換が実現されています。

コーヒーかすの熱エネルギー回収リサイクル

姫路工場と島田工場では、コーヒー抽出工程で排出されるコーヒーかすのほぼ 100%を燃料として再利用し、その燃焼エネルギーで発生した蒸気を工場の熱源として利用しています。この流動床ボイラーによるコーヒーかす熱エネルギー回収システムは日本で初めて 1983 年に島田工場に、1986 年に姫路工場に導入されました。

姫路工場では、燃料による年間エネルギー使用量の約 20%がこのコーヒーかす（バイオマス）サーマルリサイクルで賄われており、2007 年、このシステムは先導的なバイオマス活用の取り組みとして兵庫県の「ひょうごバイオマス eco モデル」第 31 号に登録されました。

ノンフロン二元冷凍装置

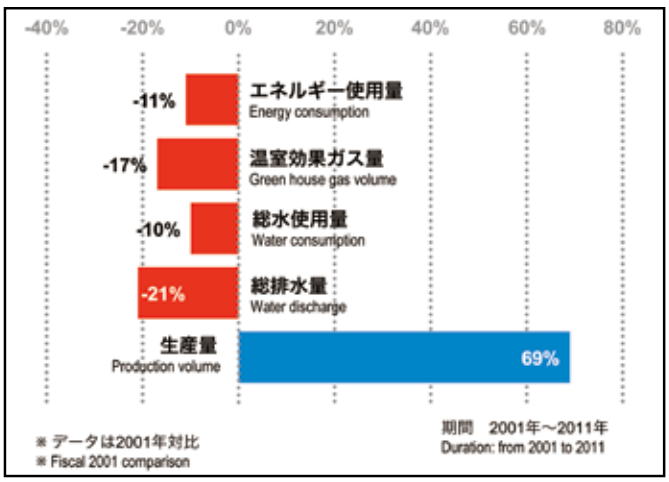
ネスレが世界のあらゆる業界に先駆けて開発した「ノンフロン二元（二酸化炭素 / アンモニア）冷凍装置」が姫路工場のコーヒー凍結乾燥工程に導入されたのが 2005 年、そして 2011 年 4 月には島田工場にも導入されました。二酸化炭素、アンモニアは共に自然冷媒で、システム内を循環し通常は大気に放出されないため、地球温暖化やオゾン層破壊への影響をほとんど無くすことができるのです。

ネスレは、*ネスカフェ ゴールドブレンド*に代表されるフリーズドライコーヒープラントにおけるフロン冷媒の全廃を目的にした 15 年がかりの脱フロン対策を推進してきました。モントリオール議定書のフロン撤廃の条約期限を 5 年前倒しにした世界的なネスレグローバルイニシアチブを、日本ではさらに約 5 年前倒しで達成。島田工場での導入により、2011 年 3 月から 7 月末では、2010 年同期比で、電力量は 26% 減、水使用量は 15% 減となっています。

ネスレの環境への取り組み

ネスレ日本グループの自社工場での生産量は 2001 年から 2011 年までに 69%増加していますが、エネルギー総使用量、温室効果ガス総排出量、水総使用量、そして総排水量は、それぞれ減少しています。

製造における環境パフォーマンスの改善（2011）



優れた環境保全活動を展開しているとして、2011年６月、ネスレ日本グループは兵庫県より「第21回兵庫県環境にやさしい事業所賞」の交付を受けました。

第 21 回兵庫県環境にやさしい事業者賞 交付式

国際規格の認証取得

日本国内の３工場すべてにおいて、2008 年 12 月までに、ISO14001（環境マネジメントシステム）に加えてISO22000（食品安全マネジメントシステム）の国際規格認証を取得。また、2011 年には、世界中の食品産業界で広く認められている食品安全認証システム「FSSC22000（Food Safety System Certification 22000)」の認証を取得しました。

無理、無駄、ムラをなくす改善活動

ネスレでは、消費者の皆さまに焦点を合わせた継続的業務効率改善活動である「ネスレ・コンティニュアス・エクセレンス」を 2008 年より全世界で推進しています。

この活動が目指すのは、３つの「C」です：

- ●消費者の皆さま（Consumer）に喜びをお届けする
- ●競合他社に対する優位性（Competitive Advantage）を高める
- ●卓越したコンプライアンス（Compliance）

日本でも、国内３工場を中心に、原材料の調達から皆さまのお手元に製品が届くまでのモノや価値の流れ全体の中で、皆さまにとって価値のない、無理、無駄、ムラをなくすことに精力的に取り組んでいます。これを日々継続して行うことによって、在庫や製造コストを適正にし、製造のリードタイムを縮小しています。また工場起因の消費者苦情も減少しています。

工場のリサイクル活動

島田工場では、2010 年より、コーヒー製品の製造過程で発生するコーヒーかすの一部を培養土にリサイクルする活動を始めました。コーヒーかすから醸成された培養土は、地元島田市にある「ばらの丘公園」へ寄贈されています。

また、キットカットを製造する霞ヶ浦工場では、循環型社会を目指し、食物残さの全量飼料化に取り組んでいます。ウエハースなどの食物残さは、近郊のダチョウ農場や養豚場、牛牧場などへ運ばれ、動物たちの飼料として利用されています。

ばらの丘公園で開催されたばらの丘フェスタでは来園された方々にコーヒーかすから醸成された培養土をお持ち帰りいただきました

環境負荷の軽減

ガラス瓶容器、あるいは家庭用コーヒーマシンネスカフェバリスタへの詰め替え用ソリュブル（インスタント）コーヒーネスカフェ エコ＆システムパックを、2012 年３月にさらに環境に優しい新容器へとリニューアルしました。カートリッジ内面や上部メンブレン（上ぶた）に使用されていたアルミ箔を一切排除し、漏斗部分のプラスチックを紙製にすることで、可能な限りの紙化を実現。これにより使いやすさはそのままに容器自体の重量を軽くし、さらに簡単に小さくつぶして捨てやすい容器となりました。

また、PET ボトルのラベルや、ココアモルト製品の袋や外箱、缶コーヒーの外箱などの最適化を進め、2011 年には 572 トンの包装資材を削減しました。

経済産業省、農林水産省などが推進しているカーボンフット

ネスカフェ エコ＆システムパックパッケージ新旧対比

プリント（CFP）制度試行事業において、ネスレ日本はインスタントコーヒーとチョコレートの製品カテゴリーの CFP の算定・表示に関するルールの策定で、中心的な役割を担い、商品種別算定基準（PCR）を定めました。またヨーロッパを中心に取り組みが進んでいるウォーターフットプリント（WFP）についても、経済産業省をはじめ、関係機関が進める WFP 国内対応委員会のメンバーとして重要な役割を期待されています。

環境にやさしい物流の実現へ

2009 年に、トラック輸送に比べて CO_2 排出量が約 7 分の 1 といわれる鉄道輸送を利用することで、ネスカフェ缶コーヒーは国土交通省ならびに社団法人鉄道貨物協会が制定する「エコレールマーク商品」の認定を取得しました。また、国内 3 工場で製造される製品の北海道への配送を、フェリー輸送に 100％移行したことで、2010 年には、「エコシップ・モーダルシフト事業優良事業者」として、国土交通省海事局長より表彰を受けました。

ネスカフェ製品のモーダルシフト輸送

製造工場から各地の倉庫を経由して流通のお得意さまへ配送していた製品を、工場からお得意さまの元までの直送に切り替えることで、より新鮮な製品をお届けするとともに、輸送距離およびフードマイレージの削減を実現するという取り組みも積極的に行っています。全社を挙げて CO_2 削減に取り組まれている大手量販店様へは、ネスカフェ製品のモーダルシフト運送をご提案し、2011 年 5 月からは、大手量販店様の専用倉庫へ、島田、姫路工場からの鉄道による製品の配送を開始しています。今後もさらに環境にやさしい物流を推進していく予定です。

社用車

ネスレは世界で「カーフリート ロードマップ」を策定し温室効果ガスの一つである CO_2 の排出量の削減とガソリンの使用量の抑制に取り組んでいます。ネスレ日本グループにおいても、役員車を含むセダンタイプの社用車約 100 台を環境性能が優れたハイブリッド車に、また、バンタイプの営業活動用車約 500 台についても、世界一の燃費性能を持つハイブリッド車を採用し、順次切り替えを進めています。

CO_2 の排出量の削減やガソリン使用量の抑制を図るため、社用車をハイブリッド車へ順次切り替え

節電への取り組み

2011 年 7 ～ 9 月度の政府の電力需給対策に従い、ピーク時間（午前 9 時～午後 8 時）におけるネスレ日本全オフィスでの最大使用電力の前年同期比約 17％削減を目指して、節電に取り組みました。一例としては、2011 年 7 月から、午後 6 時以降は空調を停止し、午後 7 時以降には照明もすべて消灯し、午後 7 時までにオフィスを退出するノー残業を推進。その結果、2011 年 7 ～ 9 月度の全オフィスでの使用電力は前年同期比 28.3％減となりました。現在も節電への取り組みを継続しています。

また、霞ヶ浦工場（茨城県）に自家発電機を導入し、国内工場 3 拠点合計で約 7 割弱の電力を自社内で調達できる体制を整えました。

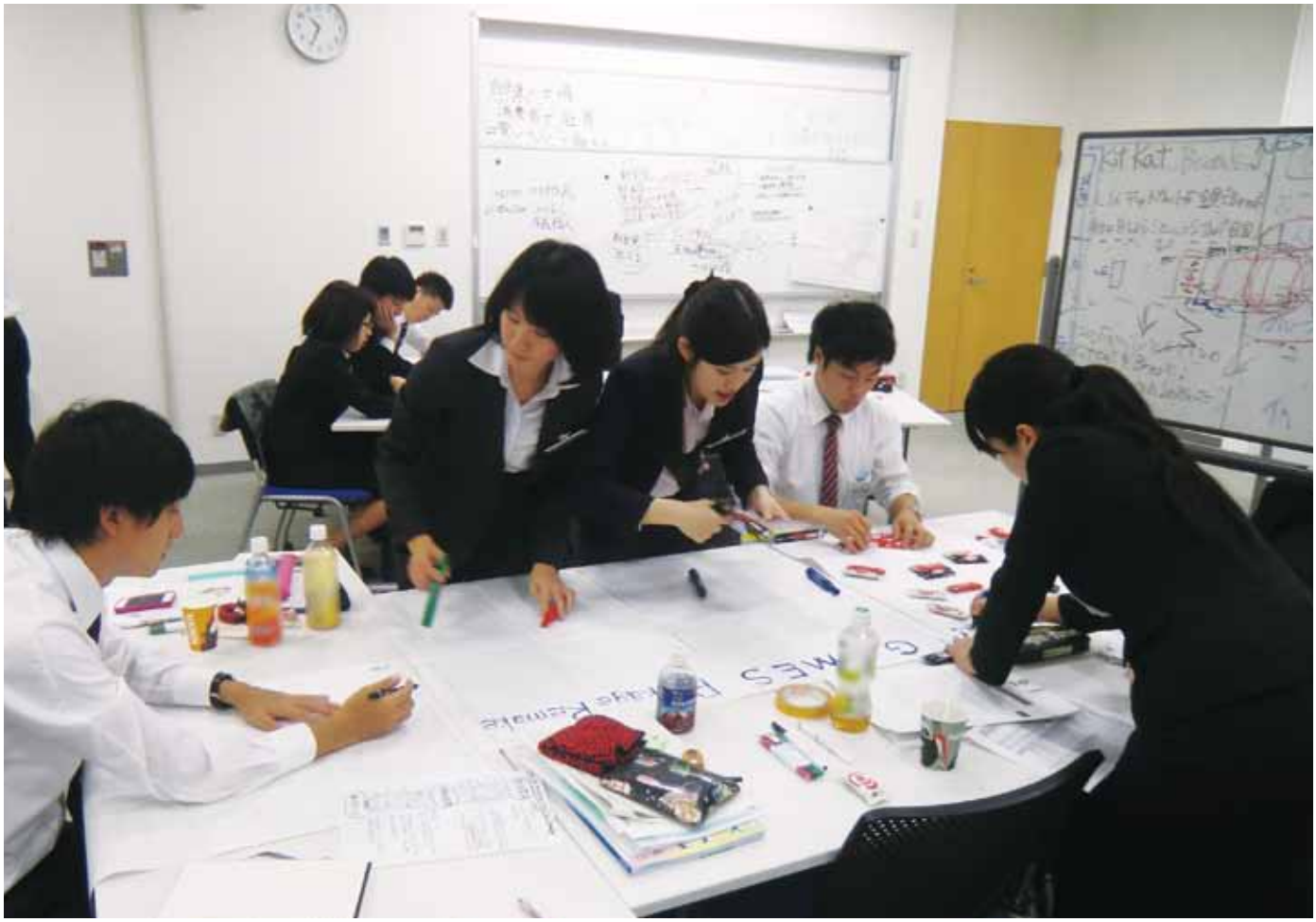
オフィスでの取り組み

顧客からの受注を受けるネスレ日本内のカスタマーサービスセンターでは、2011 年夏に FAX 複合機と文書管理ソフトを導入することで、受注のペーパーレス化を実現しました。

これらを含む全社での取り組みの結果、2011 年度の紙の使用量は前年比 8.6％減となりました。

ネスレの人材

ネスレは「社員こそが最も重要な会社の資産」と考えています。
ネスレの価値観と諸原則を共有することのできる人材の雇用こそが不可欠です。ネスレの原則の中でも最も重要なことは、安全かつ公正な職場で、社員一人ひとりが必要な機会と支援を手にして、自身の能力を十分に発揮できるようにするということです。さらに社員の声を聞き尊重するとともに、多様性を尊ぶ職場であることも含まれます。教育訓練と専門性の向上への長期的な投資は、社員によりよい就業の機会を生み、事業運営に必要なスキルを持った人材の確保をもたらします。



新入社員直前研修

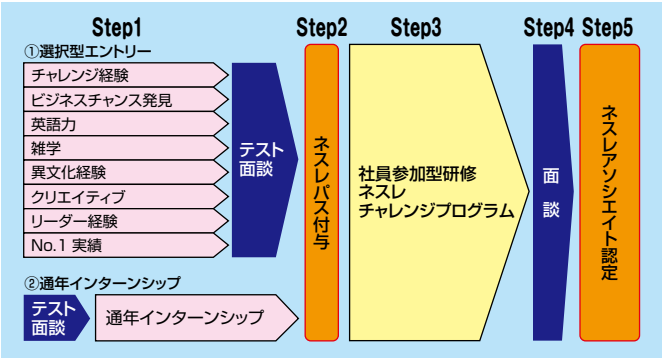
ダイナミックなチームづくりへ

2011 年度は、さまざまな個性が切磋琢磨するダイナミックなチーム作りを目指し、選考時期・方法を学生が選べ、何度でも挑戦できる新しい通年採用選考プロセス「ネスレパスコース」を導入しました。全 8 項目のエントリー項目から 2 項目を選択しエントリーするか、または通年で募集している「通年インターンシップ」に参加することにより「ネスレパス」を付与された学生は、社員参加型研修「ネスレチャレンジプログラム」に希望の時期に参加でき、その後、面談を経て採用が決定されます。

また、2012 年 3 月からはアソシエイト（内定者）の主体的なキャリア形成を支援する「ネスレ アソシエイト制度」を導入しました。全世界の社員向けに導入しているキャリア形成プランを共有する PDG（Progress & Development Guide）制度を基盤としたこの新制度により、アソシエイトが“ネスレ流”の育成に触れ、学生生活をより充実したものにできるよう支援します。

また、ネスレ日本の新しいビジネスモデル確立に社員が参画することを目指し、2011 年より「ネスレ日本イノベーションアワード」を開始しました。アイデアを出し、選択し、徹底的にやり抜くという社員の起業家精神を応援することによって企業競争力を高めていくのが狙いです。優れた成果には、報奨金やネスレスイス本社訪問旅行などさまざまな形での表彰が行われます。

■ネスレパスコース（全職種対象）のプロセス



ダイバーシティ＠ネスレ日本グループ

2009 年に担当マネジャーの任命、ワークショップの展開などダイバーシティ促進のための企業風土の整備を進め、「営業部門」、「製造部門」、「女性とリーダーシップ」の 3 重点分野でのタスクフォースを立ち上げました。また、同年、今後 10 年間のネスレ日本 ジェンダーダイバーシティ・ビジョンを決定し、2020 年までに全社の正社員に占める女性比率を 2009 年時点の 2 倍に設定しました。

2010 年からは、社員に対し、経験豊かな役員・管理職らが月 2 回の電話・面談を中心に継続的な育成支援を行うキャリア形成支援プログラム「メンタリングプログラム」を開始しています。

〈ワークライフハーモニーを支援〉

子育てや介護などのライフイベントと仕事の両立を支援するため、産前休暇、育児休業、介護休業対象者に 1 回の申請につき最長 6 カ月の在宅勤務を認める制度を設けました。また、育児支援としては、男女ともに、育児休業を最大 10 日間有給化し、2011 年には 34 名の男性社員が育児休業制度を利用しました。

2011 年 6 月には、「次世代育成支援対策推進法」に基づき策定した行動計画やその取り組みが認められ、「次世代認定マーク（通称『くるみん』）」を取得しました。

次世代認定マーク（通称：くるみん）

〈事業所内保育園「ねすれっこ・はうす」〉

女性のキャリア継続や男性の育児参加を促し「社員が長く働ける環境」を整えるため、2012 年 4 月に、霞ヶ浦工場（茨城県）に事業所内保育園「ねすれっこ・はうす」を開設しました。

工場に勤務する社員の多くがシフト制で働いており、開いていない保育園が多い早朝 7 時からのシフト勤務時にも子どもを預けられるように朝 6：30 から開園しています。

「ねすれっこ・はうす」でお弁当を食べる子どもたち

ステークホルダーの声

「ねすれっこ・はうす」の運営を委託
株式会社　日本福祉総合研究所代表取締役
安永　愛香

事業所内保育では、その社のご意向に沿った運営ができます。そのため、社員の方がお迎えの時間を気にしながらではなく、安心して働くことができます。また微熱などで通常の保育園では預からない場合も対応しますし、保育園から保護者の方にお迎え要請をすることもありません。今後、企業が優秀な人材を確保し活用していくためには、事業所内保育施設の役割が重要になっていくと思われます。信頼され満足度の高い運営を心掛けていきます。

メンタルヘルス研修

「栄養･健康･ウエルネス企業」への転換を目指すネスレでは、「ウエルネス」への第一歩として、社員の心の健康（メンタルヘルス）を支援するため、全社員に対する「メンタルヘルスセルフケア研修」を 2010 年より実施しています。この研修によって、社員がメンタルヘルスについての理解を深め、自らそれを維持・管理できるようになることを目的としています。

安全衛生管理・CARE プログラム

労働安全衛生マネジメントシステム（OHSAS 18001）を日本のネスレの 3 工場で取得済です。

連続無事故日数（休業災害が発生しない連続日数）をイントラネットに掲示し、各職場での安全に対する意識向上を呼びかけています。また人事、公正な業務、安全衛生、環境の 4 分野でのネスレ独自の第三者監査プログラム CARE（ケア）が 2007 年からネスレ日本グループの全事業所で実施されています。

コンプライアンス研修

「ネスレ考働規範」に基づき、法令のみならず「ネスレの経営に関する諸原則」の順守を社員に徹底するために、コンプライアンス研修を行っています。新入社員、3 年目･5 年目社員、新任係長・課長、に加え、2012 年からは部長にも対象を拡大し、公正で誠実な事業活動の確固たる基礎を築いています。

コンプライアンス研修

社会貢献・ボランティア

災害支援

本社を神戸に置くネスレ日本では、1995 年の阪神・淡路大震災で被災した経験から、大規模な自然災害などの際には積極的に被災者への支援を行っています。

2010 年に発生したハイチ地震では、社員から集められた義援金に、会社からのマッチング・ギフト*を合わせた約 150 万円を、2011 年には、アフリカ・ソマリア飢餓救援のための義援金として、社員からの寄付金 約 77 万円に、その同額の会社からのマッチングギフトを合わせた約 155 万円を、国際赤十字・赤新月社連盟を通じ寄付しました。

2011 年 3 月に発生した東日本大震災への対応は 42、43 ページに記載しています。

*マッチングギフト：社員による社会貢献を支援すべく、社員の寄付金と同額の寄付金を会社が上乗せする仕組み。

地域美化活動

2009 年からは富士山の自然環境保護に取り組んでいる環境 NPO 富士山クラブの活動に賛同し、清掃活動に年に 2 回以上参加しています。また、本社のある神戸市の六甲山でも清掃ハイキングを行なっているほか、本社や工場といった各事業所の周辺における清掃活動も定期的に行っています。

環境保全活動

六甲山系グリーンベルト整備事業の活動趣旨に賛同し、2009 年から森の世話人活動に参加し、災害に強い森作り、自然豊かな森作りを目指して活動しています。六甲山麓の担当エリア（“ウエルネスの森”と命名）では、間伐や植樹を行うなど整備を進めています。

収集活動

ペットボトルのキャップを集めリサイクルし、世界で貧困にあえぐ子どもたちにワクチンを提供するボランティア活動を推進する特定非営利活動法人「エコキャップ推進ネットワーク」に協力しています。他にも（財）ジョイセフ　国際協力推進グループを通じて、ベルマーク、使用済み切手などの収集ボランティアにも協力しています。

献血活動

神戸本社や工場事業所などで採血バスによる献血活動を継続的に行っています。本社では 30 年以上にわたる継続活動が評価され、2009 年には日本赤十字社から功労賞を受賞しました。

六甲山森の世話人活動

フードバンク

「セカンド・ハーベスト・ジャパン」と「フードバンク関西」が弱者支援として定期的に実施している食料の無償配布活動に賛同し、飲料を始めとしたさまざまな製品を、温度管理や再流通の防止策実施をお願いした上で提供させていただいています。また「セカンド・ハーベスト・ジャパン」が毎週土曜日に上野公園で行っている炊き出しなどにも社員が参加協力しています。

ネスレゆずりば

2011 年 11 月より、ネスレのウェブサイト「ネスレアミューズ」内に、誰でも簡単に暮らしの品を無料でゆずったり、もらったりできる新しいソーシャル・サービス「ネスレゆずりば」をオープンしました。まだ使える家電製品やベビー用品、未使用のいただきものなど不要不急の物品を、必要としている人へゆずり渡す場を提供することで、皆さまの暮らしと環境を豊かにするお手伝いをしたいと考えています。Facebook ページも展開しており、2012 年 7 月からはスマートフォン用のアプリの提供も開始します。

ソーシャル・サービス「ネスレゆずりば」http://nestle.yuzuriba.jp/（2012 年 6 月現在の画像）

協賛イベントでの活動

ネスレ日本グループは、1995 年の神戸・淡路大震災を機に始まった「神戸ルミナリエハートフルデー」に協賛しています。この会場では、毎年多くの社員ボランティアが参加し、来場者の方々のおもてなしをしています。

ステークホルダーの声

㈶神戸国際観光コンベンション協会
常務理事
稜野　敦雄

笑顔があふれる「ハートフルデー」

阪神・淡路大震災後に始まった「神戸ルミナリエ」ですが、その開幕前に、障がいをお持ちの方々に「混雑を避けゆっくりと神戸ルミナリエを鑑賞してほしい」と開催しているのが「ハートフルデー」です。2001 年よりスポンサーとなられたネスレ日本グループさんは、毎年、多くの社員や社員のご家族がボランティアとして参加され、来場者に温かいコーヒーやチョコレートを手渡したり、写真を撮るお手伝いなどをされています。この心強い支援を得て、来場される方々の喜ぶ笑顔を毎年見ることができることをうれしく感じております。厚く御礼申し上げます。

神戸ルミナリエハートフルデーで来場者に温かい飲み物を手渡す社員ボランティア

環境に配慮するため有害液を排出しない
「水なし印刷」方式を採用しています。

インキには、石油系溶剤成分を1%未満に
おさえたノンVOCインキを使用しています。

制作／ネスレ日本株式会社
コミュニケーションズ&
コーポレートアフェアーズ本部
2012年6月
http://www.nestle.co.jp